

1991/4 No.6

aqca

観日本建築美術工芸協会

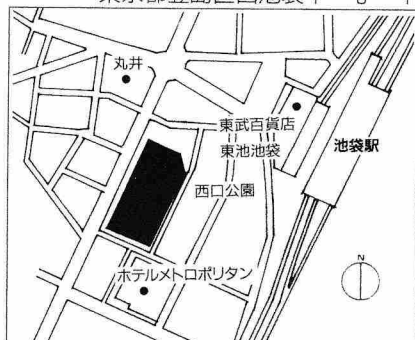


## CONTENTS

東京芸術劇場の設計について	
芦原建築設計研究所・井上 一	1
設計における芸術家の協力について	
芦原建築設計研究所・澤田隆夫	2
壁画について・西田明末	5
宇宙への響き・川原竜三郎	6
スタンドグラス制作に当たって・石川佳代	7
緞帳について・遠山景行	8
天上壁画制作にあたって・絹谷幸二	9
大久保婦久子	10
彩布「東京COSMOS」のデザイン	
内井乃生	11
「明日の記念碑として」・瀧川嘉子	12
「光壁制作について」・多田美波	13
光のオペリスク「アリオン」永原 浄	14
飯野毅	15
外構モニュメントWAVING FIGURE	
建畠覚造	17
朝倉響子	18
現代の華一輪	
榎本建規	19
南澤 弘	20
TOPICS	21
■表紙写真：東京芸術劇場	
設計／芦原建築設計研究所	
撮影／三輪晃久	

東京芸術劇場所在地／

東京都豊島区西池袋1-8-1





HAJIME INOUE  
井上 一  
芦原建築設計研究所  
所長代理  
東京都渋谷区桜丘町31-15住友生命渋谷ビル  
TEL.03-3463-7461

## 「東京芸術劇場の 設計について」

東京芸術劇場の立地条件をみたとき、池袋駅西口と敷地を結ぶ部分にある池袋西口公園は劇場への地上面での主要なアプローチ部分となっている。また敷地の北側の端を地下鉄がとっているため、その振動騒音源からホールをできるだけ遠くに配置することが絶対条件であり、一方この種の複合施設としてまとまったコミュニティスペースが不可欠な要素でもある。4つのホールを平面配置することは騒音源との関係や、コミュニティスペースがとれない等、抜本的解決策を要求されるところとなる。そこで敷地の南

側に4つのホールを積層システムによる立体構成で配置することにより、敷地の北側にかなりまとまった空間を生み出すことができたことは都市空間の高度利用の観点から貴重なスペースといえる。このスペースをアトリウム空間として開放性をもたせ、隣接の公園の整備と一体的に計画、デザインし、相互のオープンスペースが有機的な働きをするようにした。

公園広場、アトリウムには、このような空間の重要な構成要素となる環境造形について多くの作家の協力をえられる企画上のシステムによって、それぞれの場所にマッチしたオリジナル作品を配置することができた。特に駅から公園をとおしてアトリウムへ向う軸線上に配した大型のモニュメント（ミドモア作）は建物

の大空間と対峙すると同時に公園広場の求心的役割も果し、外部空間の総合性を高めることができた。

アトリウム空間からは各ホールへのアクセスが一目瞭然とわかるように立体構成をカラーゾーニングによって明確にし、それぞれに色分けされたエスカレーターによってアプローチする。大ホール（コンサートホール）へは大エスカレーターにより5階のレベルの公共広場にアプローチする。この階は広場の奥に展示ホールなどを配し、ホール利用以外にも大空間の奥まで入ってもらい日常的に多いに活用、親しんでもらえるように工夫した。



大ホール



TAKAO SAWADA  
澤田 隆 男  
芦原建築設計研究所  
副所長  
東京都渋谷区桜丘町31-15住友生命ビル  
TEL.03-3463-7461

## 東京芸術劇場の設計における 芸術家の協力について

東京芸術劇場及び池袋西口公園の計画には、29人の芸術家の協力による41点の作品が設置されている。それらは、建築設計の一環として、設置個所や仕様、予算などが予め組込まれ、工事の進捗に合わせて、設計者側の起案にもとづき、作家選定委員会の承認を得て選定された作家たちの作品である。

アトリウムには、床の間とも云べき半円形をしたアルコーブがあり、その中心に佐藤忠良氏のブロンズ彫刻を置き、アトリウム天井からは、金色をした金属片を散りばめた伊原通夫氏の懸崖彫刻を吊り空間に潤いをもたせている。そこから5階広場への大エスカレータを登りつめ

た正面に絹谷幸二氏のフレスコ天井画をめだたせ、広場の一隅には大久保婦久子氏による美しい皮革作品が格別な味わいを醸し出すようにしてある。そして、大ホールのメインホワイエに多田美波氏のガラスによる微妙な色調の美しい壁面構成が、中ホールホワイエには、川原竜三郎氏の手のかんだブロンズ壁面彫刻が、会議ブロックのロビーには、瀧川嘉子氏のガラス造型と、内井乃生氏のタペストリーが、……というように、各施設に数点づつの作品をおいている。

外部には、もうすっかり馴染んでくれているニューヨーク在住の彫刻家クレメント・ミドモアの高さ10mのモニュメントを中心として、見る角度によって曲線が直線に変る建昌覚造氏のモニュメントや、台座から解放し歩行者レベルにプロ

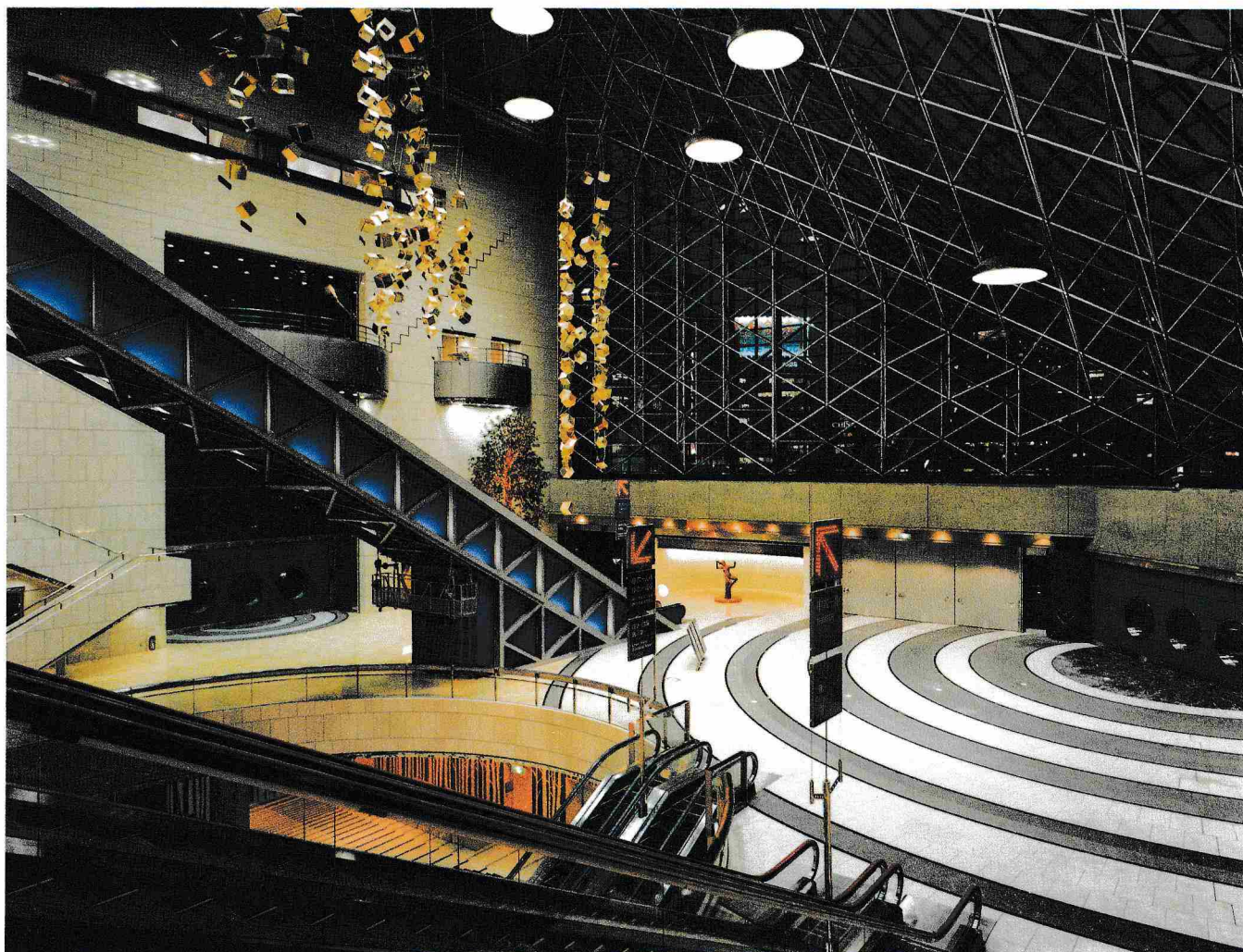
ンズ像をたてることでお馴染みの朝倉響子氏の作品や永原浄氏の発光ダイオードをモチーフとした光のオベリスクなども設置してある。

又、西口公園には、現代彫刻センターの協力により設計事務所がプロデュースした10人の彫刻家による18体の空中彫刻群を実施した。

その他、豊島区や地元商店会が設置した記念像や記念碑が加わり、まさに彫刻公園の観を呈している。

この様に振り返ってみると、この計画の質と量は、公共建築にとって大へん恵まれた例であり、オーナー側の文化に対する理解の深さを示すものと云えよう。

この計画が、今後〈建築と関連した美術・工芸との結びつき〉の発展のための一例になることを望むものである。



アトリウム全景



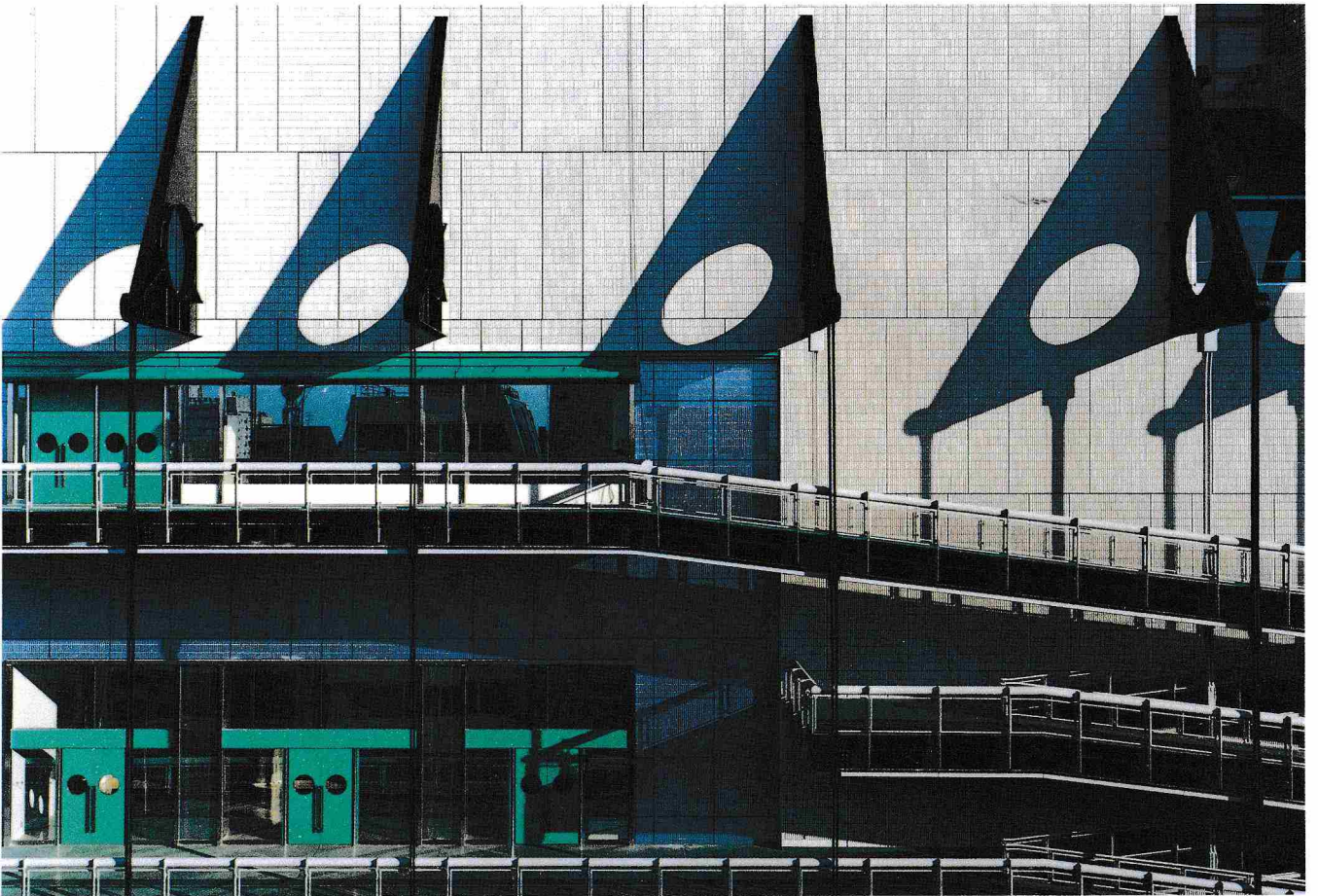
小ホール



中ホール



大ホール



東側立面



環境造形作家  
AKEMI NISHIDA  
西田 明未  
東京都千代田区二番町1千代田マンション201  
西田美研(有) TEL.03-3237-1246

## 東京芸術劇場の壁画について

池袋に東京芸術劇場ができる事を新聞で知ったのは、数年前の事でした。

都のご関係のご担当者や、芦原先生のところ时不时々お訪ねし機会があったらと思ひご提案できるよう念じておりました。

一昨年頃だと思ひますが、都のご担当の方や、芦原先生からご提案しても良いというお話を承ってとても心が踊ったのを覚えております。

芦原先生から二階の喫茶室の壁面に、縦4.8m、横7.8mとの面積をお聞きし喫茶室にしてはとても大きな壁面だと思ひ、柔らかな優しい色と形で表現してみたいと思ひ、芦原先生にどんな表現が建築と

合うでしょうかとお伺ひしてみました。芦原先生は、任すから自由にやってみてくれとおっしゃいました。

周囲の環境、建築の素材、色と形との調和、壁画ご提案の空間の使用目的をお聞きし、品が良くて艶やかで、何か洒落た雰囲気のある作品を制作してみたいと思ひました。

自分の心に素直に、シックにまとめあげてみるのが大切だと思ひ午後一時をこの喫茶室で過ごす自分の姿を映しこんでみました。この芸術劇場を訪れる方々が、ファミリーで、親しい友人と、恋人と難しい理屈を抜きにして装いを新

たにチョット気取って座っている姿を重ねてみました。

素材については、石とガラスと陶器の三つでまとめ、特に、陶器については、手作りの良さを出す中で、背景の色合いを微妙な複雑な重ねの柔らかさを表現できるように注意してみました。

作品の題名も「ハピネス」と命名し、強烈なインパクトを観る人に与えず、周囲と調和したさりげない魅力のある作品が出来上がったと喜んでおります。





彫刻家  
RYUZABURO KAWAHARA  
川原 竜三郎  
東京都大田区田園調布4-47-14  
TEL.03-3722-4849

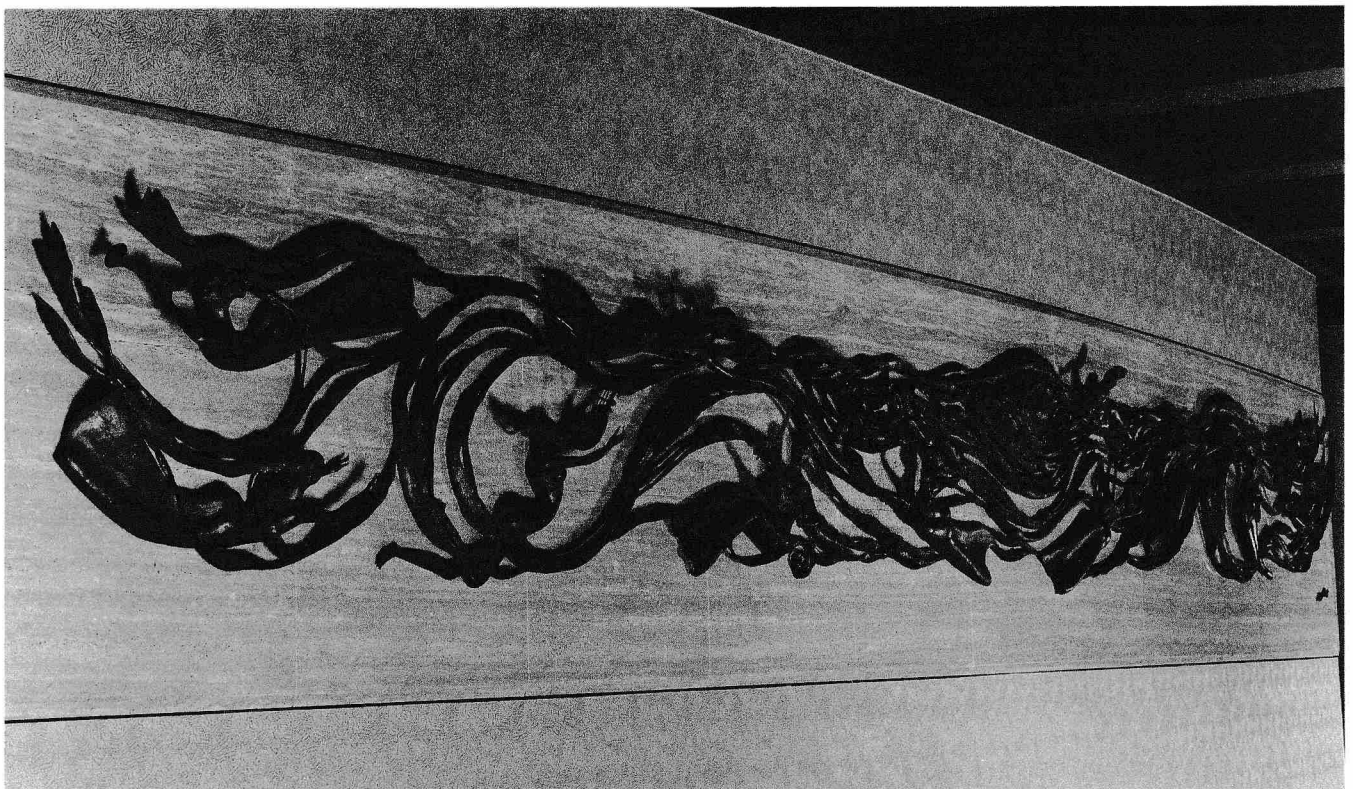
## 宇宙への響き

1988年9月下旬、建築家の芦原義信先生から、お電話をいただき、芸術劇場2階のホワイエの壁面彫刻の依頼を受けました。壁面彫刻の経験は何度かあるものの劇場全体の建築規模に驚くと共に大きな責任を感じつつ、早速作品設置部分や全体の図面を頂戴しめやすとしての構想、デッサンを考えた。ブロンズ仕上げまで1年9ヶ月程の期間があり、一応計画的にデッサンを急いだ。その構図をねりながら、私の頭に次々と浮かんだのは大きな空間への形体と21世紀を展望した作品、又宇宙的空間をテーマにした楽しいものにしたいということ、又その目的に対し自由な自然的又、神秘性を秘めた表現をする事で、従来の表現方法やテクニックに特にこだわらず制作していこうと考えた。9m×4mの壁面を宇宙的空間の一

部と想定し、それが如何に建築の目的とうまく調和するかも大変重要であり数多いデッサンを描き、現場見学を続けるうちに宇宙に躍動する造形のイメージーションが生れてきた。早速蠟型による1/10の原型の制作にとりかかる。蠟型による原型は従来の粘土型や石膏原型と異質であるだけでなく、最終的なブロンズに一番近い質感として理解できるため担当の方々との意見交換をくり返す中、担当の方々にも理解していただく事が早かった様に思われた。それによって私の表現への自信と制作への情熱も湧き1/5の原型(蠟型)に取りかかる。この1/5の原型は実寸への制作を想定するのみならず、じかに蠟型による技術表現であり日本ではまだ一般的でないが、イタリアで学んだアルトリリエヴォ(Altorilievo)高浮き彫りの壁面彫刻である。この蠟による制作の利点としては、従来の彫刻制作方法の粘土、石膏型に於て、技術的に不可能な事がすべて可能となり、又蠟特有

の技法が楽しめるわけであるが、鑄造技術も特殊なものだけにまだ日本では、なかなか困難な点も多い。さて実寸の制作に入り、毎日蠟をひねっていくうちに、次々と宇宙への響きのイメージが湧き、私に何かを語りかけてくるようになり、全神経をこの壁面彫刻に集中できるようになる。自分がイメージの中で翔ぶことによって表現が客観的に見えてくる。この作品への心理的経過は、かつて学生時代ファッツナー二教授から学んだ事でもある。さてこの表現を通して最も重要な事は、空間での造形目的に対する意義はもとより、その造形形態を包む第二次的な空間の存在の重要性である。つまり両者が位置空間の中で相互作用する事によってより芸術性を高めていくということである。

(創作にたずさわる者の願いとしては、建築物及びそれに付帯する美術品に対してその理解を深め、身近なものとして愛情をもってほしいものです。)







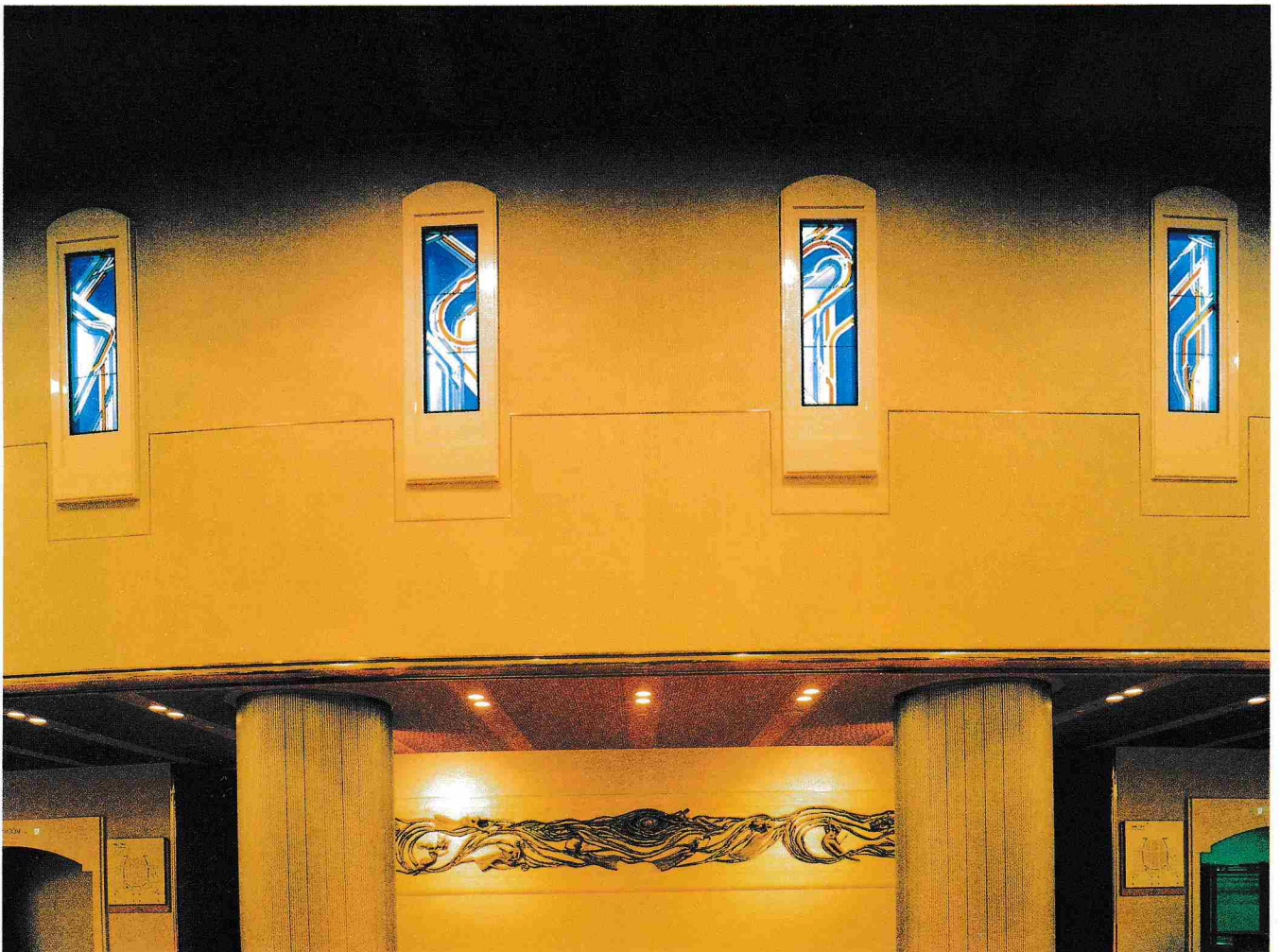
KAYO ISHIKAWA  
石川 佳代  
㈱メイフェア  
東京都世田谷区奥沢6-3-6  
TEL.03-3704-6141

## 東京芸術劇場の ステンドグラス制作に当って

劇場の中ホール入口ロビーを入ると、上部にゆるやかに湾曲した壁面があり、その反対側は二階のホワイエとなっている。ステンドグラスは、ロビー側、ホワイエ側の間仕切りの形で両方に違ったデザインのシリーズで入れられた。ロビー側にはブルー、グリーン、そしてピンクを基調とした流れるようなデザイン、ホワイエ側には白を基調とした間に、春夏秋冬をわずかな色の違いでイメージした様々な色がシンプルに入っているデザインである。デザイン画は荻原建築設計研究所からいただいたが、ステンドグラスはその構造上、必ず鉛線で区切られ、ガ

ラスの切られる形、大きさに制約がある。オリジナルデザインにその点を考慮した線、そして補強上必要な線等を、デザインに取り込む形で補正させていただいた。補正線とはいえ、デザインに影響するものなので、実寸大に拡大し、鉛線も実際に使用するものと同じ幅に描き入れた下図で検討していただいた。デザイン画はマーカーで彩色されてあったが、その色を出るだけ忠実に再現する為に幾つかの部分ではガラスを重ねた。ガラスは色だけでなく、製造の違いによる様々なテクスチャを持っている。そのどれを使用するかどういう組合せをするかで表情が違ってくる。今回はデザインがシンプルであったので、色合せをするだけでは単調になる為、中世のステンドグラスが作られた時と同じ製法のアンティークガラスを使用した。このガラスは全て手造りで、気泡が入ったり、厚味も一定ではないが、そのことが、光を受けると微妙な味わい引き出す。シンプルであればあ

る程、そのガラス自身の持つ性質がパネル全体をどれ程格調高くするかが問われる。今回は厚い壁の中に入るステンドグラスという事で、ワンペアずつのパネルの上下左右に間接光として照明装置が取り付けられ、ホワイエ側のパネルの裏には半透明の亚克力板を入れた。照明の具合をみる為にシミュレーションボックスを作っていた。ガラスの決定、切った段階での色の具合、更にパネルになってからも、イメージ通りに仕上がっているか等、荻原建築設計研究所副所長の澤田氏、そしてデザインをされた宮崎さんには何度も来ていただき検討していただいた。日本のステンドグラスは与えられる製作期間の余りない事が多いが、今回は時間をかけて様々な角度から見ながら、考えながら製作する事が出来た。東京を代表する劇場の壁面装飾に関わることが出来たことは、ステンドグラスを一生の仕事とする私の幸福な体験であった。





KAGEYUKI TOYAMA  
遠山 景行  
株式会社島織物  
東京都千代田区永田町2-14-2山王グランドビル  
TEL.03-3506-0800

## 「東京芸術劇場」緞帳について

池袋駅西口からのアプローチ、池袋西口公園をも包みこむようなアトリウムの心地よい空間の広がりの中に身を置くと、大、中、小、それぞれのホールへとエスカレーターによるアクセスは、次なる次元の展開を予感させる世界である。「東京芸術劇場」は、外部空間と内部空間を結ぶアトリウムと、ホールを建物の縦軸に配置した大胆な構造に新生池袋の息吹きを感じられるだけでなく、建物の周囲や内部の各所に絵画や彫刻、照明等、多くのアーティストの参画による「演出」は、この芸術会館を21世紀に向かって世界の芸術・文化の発進基地とする関係者の意図が十分に表現されていると思われる。

このような「東京芸術劇場」の中ホー

ル緞帳デザインの本格的な取り組みを始めたのは1989年初めではなかったかと記憶します。デザイン・スタッフ全員でミーティングを繰り返し、アイデアを絞り、スケッチを重ねたものの中からセレクトされたものが四名のデザイナーによって描き上げられ、それらの中の一枚が別掲の通り選ばれた画である。

潜在したイメージが形あるものへと定着されていく中で、日本の美意識をも内在させた緞帳を考え「都」のシンボルである羽ばたく「都鳥」と「桜」「銀杏」をテーマにして、動きのある色彩のトーンを基調にしたデザインに決定をみました。

緞帳は綴織の技法をもって制作いたしますが、この度のデザインは綴織で表現するのが難しいと言うより、この色彩のトーンの変化を表現するのに色数が千色以上も有り、非常に時間のかかるものであったため、織の組織変化、素材、配色の組立、よりデザインの意図を確かなも

のにするに十分な下絵と、従来の緞帳に倍して入念な準備の上制作したものです。織上りもデザインの持つイメージを生かしながら、織ならではの風格ある緞帳に仕上がったのではないかと自讃するものであります。

緞帳は、単に舞台と客席を物理的に隔てるものである外に、現代の劇場空間に、空間の質的な目的に合致したもので、即ち、建築と同化したコンセプトによる統合性が必要である。将来的には建築・緞帳のデザイン、制作はコンセプトのプラン段階での参画が要請される機会も多くなるものと期待すると同時に、緞帳のもつ抽象的な“美”にも存在感を見いだす日本の美意識を大切に、緞帳の制作に取り組むべきことを痛感した次第であります。





画家  
KOHJI KINUTANI  
絹谷幸二  
東京都世田谷区成城4-6-15  
東京芸術大学助教授

## 東京芸術劇場天上壁画 制作にあたって

古代アルタミラ以来連綿と続くボン・アフレスコ（真性アフレスコ画）で本格的に穹窿天上壁画を描くには当初より幾多の難関が予想された。

第一に熱を集中させる特質のある穹窿に左官工事が充分施工され得るか。

第二に絵筆を頭上にかかげ顔料をシャワーの様に受けての制作上の困難。

第三に穹窿に絵を描いた場合画面が歪曲しゆがみが出るがその対策。

第四に短期間の制作時間に巨大な三つのアーチを描き切れるが……などであった。

当協会会長芦原義信先生の依頼でありおことわりすることもならず引き受けたが、それ以来大変な戦いが始まったのである。

制作前半年間に2度渡欧し、パリ、オペラ座シャガール円形壁画、マドリッド、ゴヤの穹窿天上壁画調査、そしてイタリアを回遊し4年間の留学時代研究した寺院などの再訪。この調査研究中に作画の構想を練り続けた。

壁画は本邦ではこれまで装飾性的のみに重点がおかれ、言わば毒にも薬にもならない見た目だけの上滑りした建物に隷属したものが多数見られた。しかし本来壁画は人間の精神の高揚の場であらねばならず見る眼の後ろ側にある本体の脳髓と語り合えるしるものであってほしいのであった。

渡欧に於いて作画構想を練り続けたのは実はこの一点であり、画面上の絵の組み立てによる構図法ではなかったのだ。

壁画は一個人が所有してしまうタブロートと異なり、又絵画を愛好する人々の集う美術館収蔵作品とも一線を画し、一般



の人々誰もが集う所に植物の様に動くことなく存在し続ける絵画なのである。そして私は現在私自身が感じている喜びや苦しみ、楽しさや悲しさ心の中の出来

事を石炭岩の岩の壁に塗り込めて、まだ出会った事もない未来の子供達とアンジェラの涙と共に語り合えることが出来ればこれ以上の喜びはないのである。



革工芸家  
FUKUKO OHKUBO  
大久保 婦久子  
東京都新宿区下落合3-21-20  
TEL.03-3951-4392

私は東京芸術劇場が建設される事は、かねがねお聞き致しておりましたが、その御設計が芦原先生とお伺いして、すぐ先生の御設計の千葉の民俗博物館の事を思い出しました。所が一昨年の秋の頃、先生から芸術劇場のお仕事をとお話をお受け致しました。私の住いの一つ先の駅の池袋に建つ事に親近感を持ったのでございますが、それにもまして先生の御設計の建築物の中で、自分の作品をながめてみたい、自分の姿を見つめてみたい、と思う念の方が大きく、お言葉にしたがい早速と研究所にお伺い致しました。

そして設置されます所が貴賓室である事と、作品の大きさ等をお伺い出来ましたので、其のテーマに就きましては、只今私が扱っております創世紀に致したい

と思い、先生のお手元に二枚コンポジションをお届け致しました所、其中の日時計を扱った方の図をお取り下さいました。此は横画面を波で斜めに仕切り、草原を畫、海浜を夜とした情景を表現したものであります。

革の仕事は、私は素材の鞣製の変化から茶色に始まって茶色に終る物と思っておりますが、なお革の為に湿気をふせぎ、塵をよける手段と加飾を兼ね金箔と岩料を使う事をルールとしております。

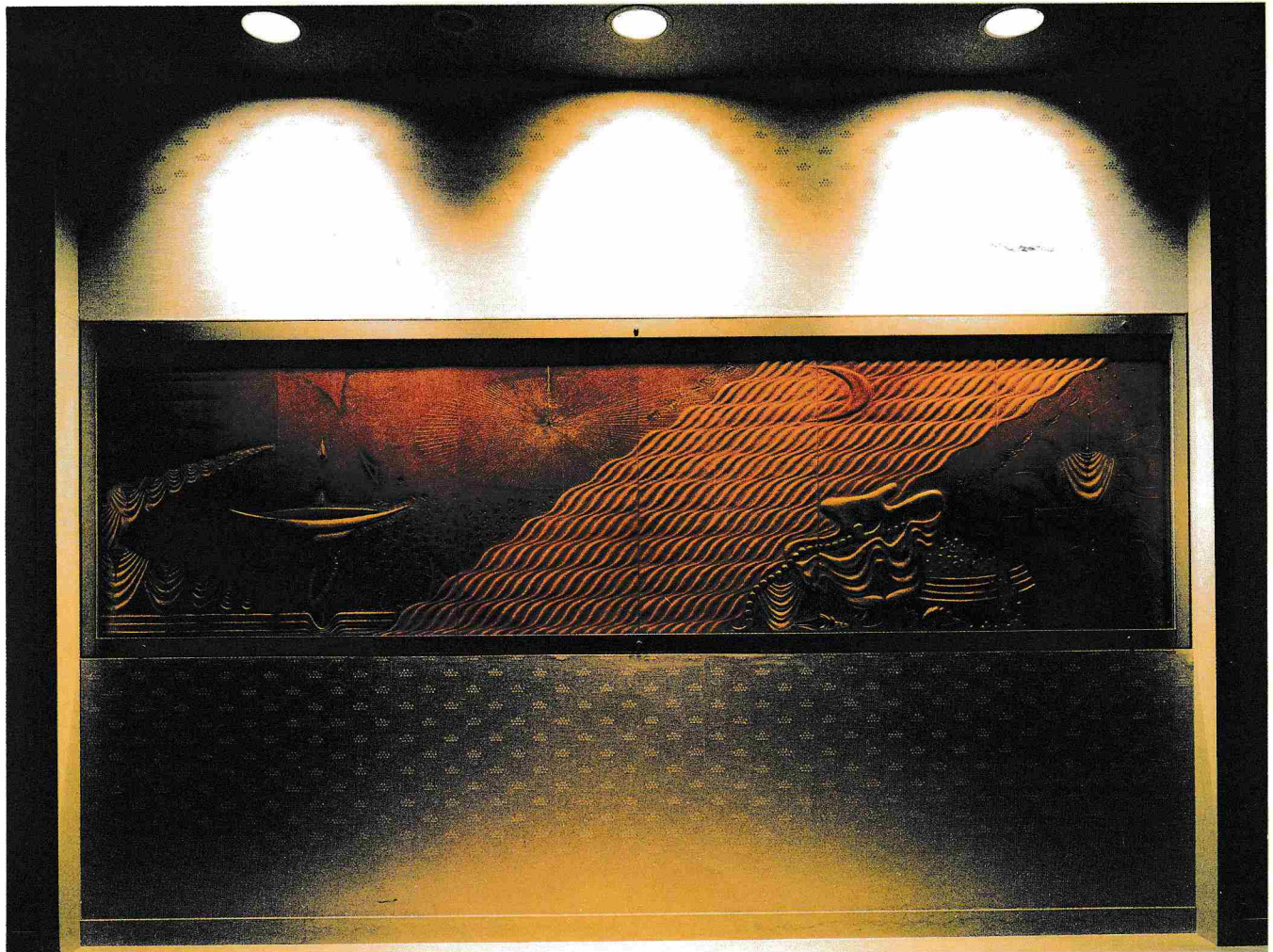
さて、制作進行中に、再度5階の壁面、エスカレーターを昇りつめた右側を見た處の場所に横長の作品をと云うお話を受けました。

この作品は縦巾が狭く、本当に横長のスペースで御座いましたが、三枚のコンポジションをお届け致しました所「海の幸」を選ばれました。“慶び”を表したか

った此図は、セクションに大漁の網、波間に海の女神の慶びをそして手に手に海の幸を捧げた人々の様が横一列に並んだ構図です。

革を壁面に持って来る迄、私は色々と試行錯誤を重ね、今迄はいつも額装で飾られておりましたが、此度研究所の澤田様大変お世話になりまして、壁に嵌め込む事になり作品の為に大変嬉しい結果となりました。

取り付にあたり、職人さんと夜おそく迄現場に詰めましたのも楽しい思い出となりました。





彩布  
NOBU UCHII  
内井乃生  
文化女子大学生活造形学科主任教授  
東京都渋谷区代々木3-22  
住居研究所 TEL.03-3299-2359

## 彩布「東京COSMOS」 のデザイン

芦原先生のお仕事をお手伝いさせていただくのは、横浜女性フォーラムのエントランスホールについて2回目、いづれも設計の段階から、彩布の吊り下げる位置を考慮していただき、その建築空間のイメージを彩布の中で凝集できるというやり甲斐のある仕事であった。

東京芸術劇場の場合も、まづ全体の模型と図面を見せていただき、彩布を吊る5階会議室前の吹抜けロビーの立面図をいただいた。とっさに頭に浮んだデザインは、巨大なアトリウムを覆っているガラス屋根を支える三角トラスによる大宇宙空間を、彩布のモチーフにすることであった。

作品名は早速「東京COSMOS」と決めてしまった。三角形の幾何的な組み合わせによって、万華鏡のようにさまざまな形が色によって動きパターンが変化するという面白さを、手織りという調整可能な工法を活用して、なるべく数多い表情が生じるようにした。

彩布36本(1本のサイズ、巾300×1800)の組み合わせの変化によっても、異ったパターンが生み出されることを考え、実物制作に入った。そして完成間近かい現場を見て、組み合わせ方は、3対を天井からイスの背まで吊り下げることにした。1対の大きさはタテ3.6m、巾1.8mの細長い布を垂れ下げるので、布地のボリュームが必要であると考え、周囲だけをシャギー織りにし、額縁状にした。この方法は初めての試みである。

色調は芦原先生好みのブルーを主調色とし、明るく、華やかに、空間を元気にさせるために赤・ピンクなどの対比する色を配して、東京の都市の活気を表現したいと考えた。



無秩序に上下、左右に拡張していった東京という宇宙を、三角形という単純な形と、多色な色使いによって、立体的に動いているパターンを考案した。

世界各地からさまざまな色が東京に集合し、無秩序に混合しながらも、東京コスモを形成している秩序感を感じさせるような彩布にしたかったのである。



立体造形家  
YOSHIKO TAKIKAWA  
瀧川 嘉子  
東京都大田区南千束2-20-5  
TEL.03-3726-3702

## 東京芸術劇場

### 迷宮へー明日の記念碑としてー

基本構想の段階から20余人もの多様なアーティストが参加することを前提に建築設計が進められた東京芸術劇場。

この、真に画期的な一大事業の完成を心から御祝い申し上げると共に、芦原先生をはじめ関係者各位の御尽力に大いなる喝采をお送りしたいと思う。

そして何よりも、作家の一人として私も加えて頂いたことに深く感謝申し上げます。

あらゆるものが有り過ぎる位の東京で、現代美術が常設され何時どなたにも御覧頂ける場所が極めて少いだけに、このような建築とアートの共生を計る施設建設の意義は大変深く、大きい。

だが、大中小の劇場を持つ大きな建物の完成は新聞やTVを通して広く人々の知るところとなったが、そこに美術や工芸の作品が多数設置されていることを知る人はほとんどいないー少くとも私の周

辺で私がお伝えした方々を除いてはー

一般の人々の意識の中で「作品」は依然として美術館や展覧会場の中に隔離され、その他の場所では例え作品の前を通っても、それが「目に入らない」人が多いことも事実である。

物言わぬ小さな存在であり実利実益には即応しない「作品」を公共の空間で共有する喜び、共有の作品の一々と対話することの素晴らしさをどのように一般の方々に知って頂くのか。

建築家と作家の共同作業も互いに育てあう長い過程を要するだろうが、建築家や作家を含む送り手と受け手である一般利用者との真の共生を作りあげることも又、時間と努力を要する一大事業ではないだろうか。

その為には、作家個人の自己宣伝を越えた次元で一般の人々に向けた広報活動<sup>ガイダンス</sup>、すなわち、受け手の関心を喚起する為の状況作りも時には必要となろう。

社会共有の財産は送り手だけでは作れない。価値を生み出す作業に受け手が加わった時始めて、パブリック・アートも言葉の深い意味に於いても充実したものになるのではないだろうか。

東京芸術劇場の完成はその画期的構想ゆえに一層、ここから育てあげるべきものの誕生であって欲しい。

5階会議室入口に設置場所を頂いて制作した作品「明日の記念碑」は、未来都市又は空中都市のイメージから生れたものだが、この題の裏には以上のような、私の切なる祈りも込められている。



撮影 平塚晴康



彫刻家  
MINAMI TADA  
多田美波  
東京都杉並区宮前5-1-5  
TEL.03-3334-8872

## 「光壁制作について」

芦原先生より東京芸術劇場、大ホールのメインホワイエの壁面の御依頼を頂いた時、先生の建築で始めて作品を制作出来るということと、東京以外のホールでは、幾つか仕事をしたことがあったけれど、待望の東京のホールという事で喜びは格別であった。

芦原先生より、帝国ホテル、ロビーラウンジの様なガラスの壁面をというお話で、20年ぶりの光壁の制作に又意欲が湧いた。建築の設計に溶け合い、現代感覚で人々と対話の出来る光壁をと。この壁面はメインホールのホワイエであり、立派なコンサートホールに調和するものでなければならぬし、このホールに、出

入りする人々の流れで多くの視点がある事等、この建築の中の責任ある役割を感じながら制作を進めて行った。

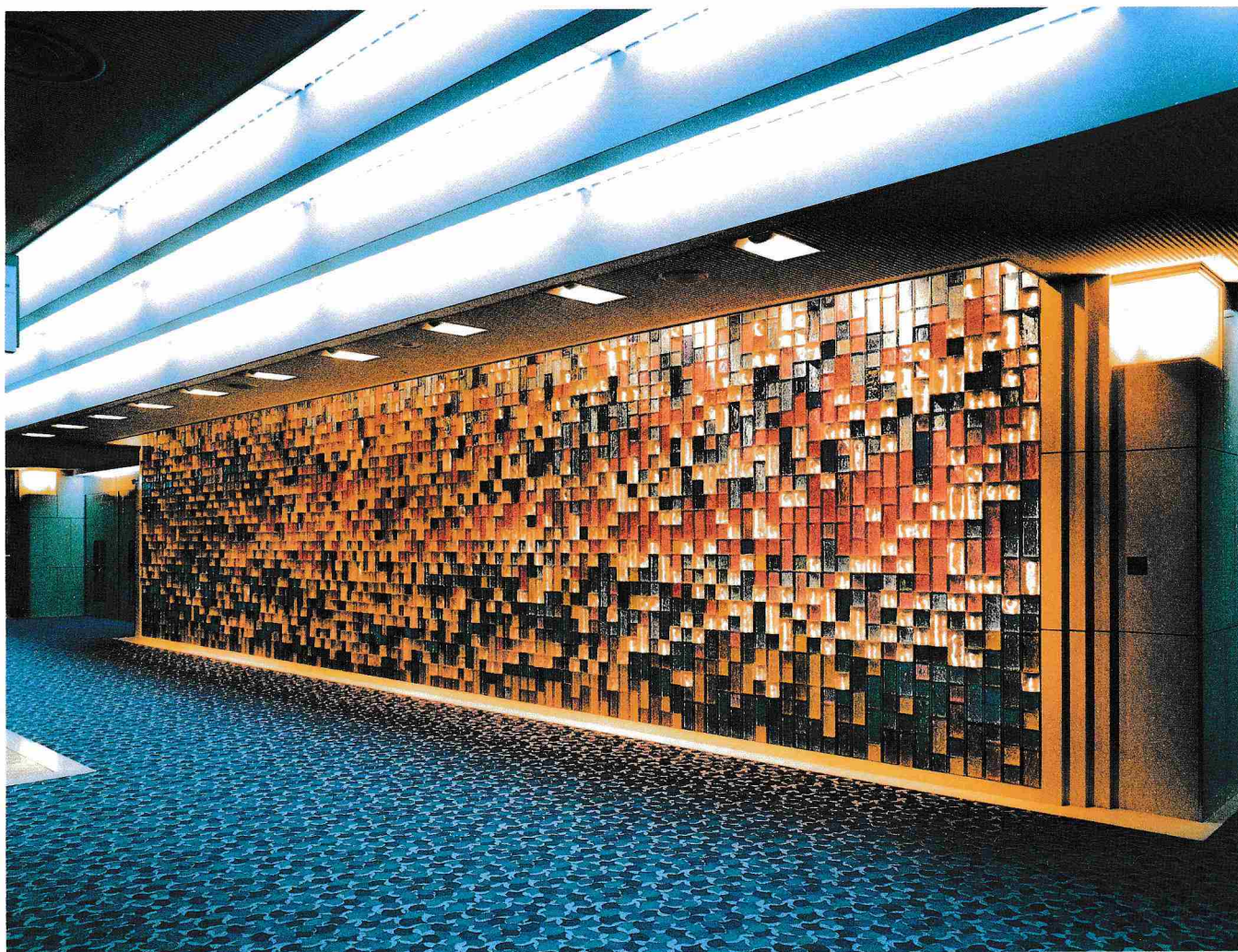
帝国ホテルの場合は、8メートルの高さもあった為、ガラスブロックを反射板を兼ねた取付板にセットして構成したが、今回はガラスブロック自体を光を反射する様な構造とすることに重点を置いた。無色のガラスブロックは、発光体となる様に、レンズ効果を考えた形とし、この部分が全体の主調の光によるリズムを形成する様にした。

ガラスの制作は、20年前にも意欲的に取組んで下さった「上越クリスタル硝子」に、再び依頼をした。度重なるガラスの形

状、色のテスト、金型の変更にも応じて、一貫した制作を続け、3倍の数のブロック制作から、色と、形状の選択をして、私が工場で最終制作をした時にも、ガラスの移動、選択等、専務夫人と、女性仲間の協力があったり、お陰で又20年前と変らぬ光壁の制作を再現することが出来た。

光壁も光と色での表現が主流だったのでハロゲンランプの照明器具も新しく設計して取り付けた。

音楽ホールに続く重要な空間なので、演奏の余韻をただよわせたいとの思いが強かったので、構想を練っている時間は必ず音楽を聞きながらの楽しい制作でもあった。





照明デザイナー  
JO NAGAHARA  
永原 浄  
東京都板橋区成増2-36-36  
TEL.03-3975-1800

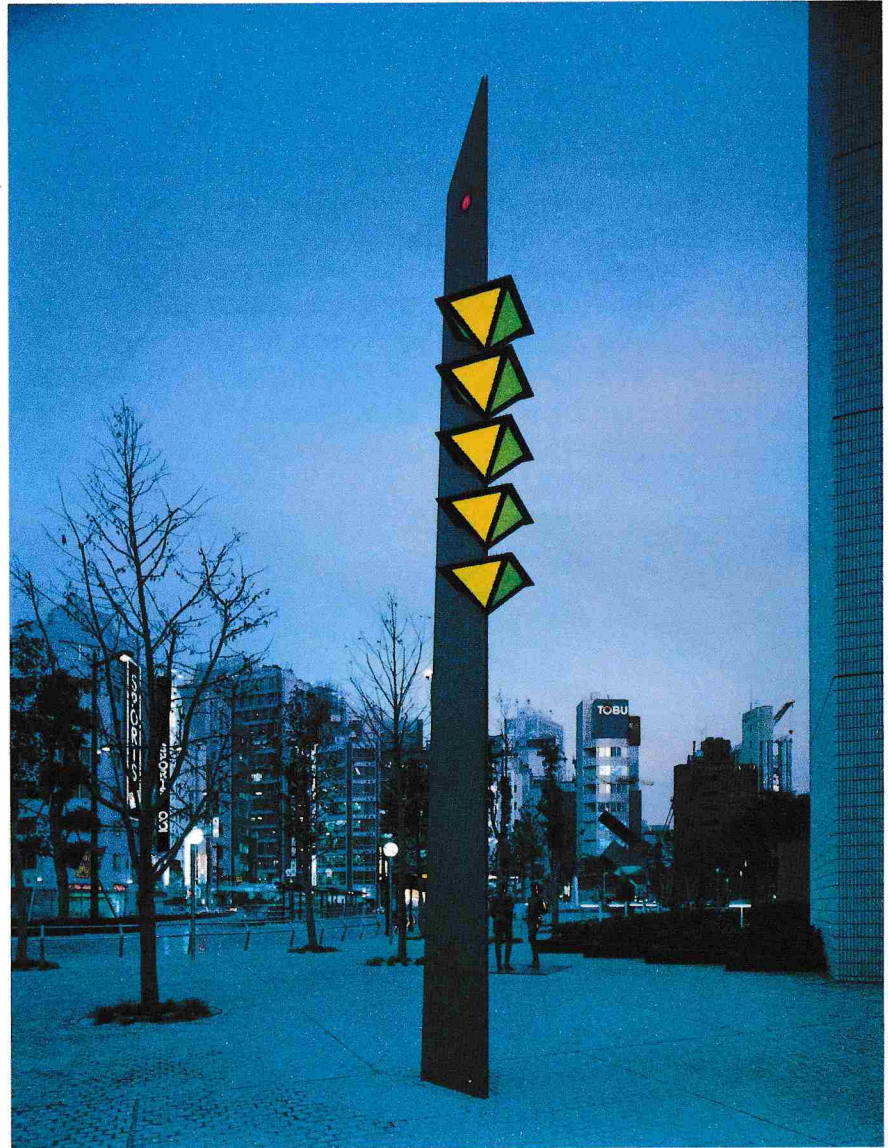
## 東京芸術劇場

### 作品

### 光のオベリスク「アリオン」

実は光のモニュメントのデザインが決まる前に、芦原先生から、大ホールの手回しエスカレーターの吹抜部にシャンデリアに変るべく光の造形を御依頼があり、面白い空間であり客溜りの空間では視線を誘ふ事の出来る、はっとする様な手法を考え、澤田さんとも打合しながら設計チームの合意を頂いて形が決まった。何分にも長さ10米余りの長い光体をエスカレーターの上に吊り下げるので、色々と仕組を凝してラフモデルで提案をしてもらったら、都側からメンテナンスに問題ありと難色を示され、芦原先生他スタッフに御迷惑を掛けてしまった。全く新しい形ではなかったかと残念でたまらなかった。その後芦原研究所より、屋外の空間に光のモニュメントになるものを作って欲しいとの連絡を頂いて、ペナルティーを背負って再提案となるので慎重に事を進めた。光や高さについての御意向もあって十分に配慮して現場のシチュエーション、使う側に対する配慮等を形を決めるチャートとして2案をモデルで都側に直接提示する事になった。澤田さんと共に都庁に出掛け、初めての都庁舎を通り抜け、営繕課の鈴木課長そして永井管財部長、文化局の方々に提示し一案が全員の合意で決まった。最近モニュメントの形が何かしら似ているし、一つのインパクトに引きずられてアイデア頂戴形が多い中で都側も注意を払っての決定であったように思ふ。現場の状況からメンテナンス、特に仕上の将来性、光源の耐久性、仕用材の恒久性等を配慮したスケールでの光のモニュメントの提案であった。チタン板の加工限度寸法8米内で形を制作出来る工場をJVの推薦で菊川工業をお願いする。新しい光源となるダイオードについては以前から実験的作品を作っているスタンレー電気に協力をお願いした。

提案した光のオベリスクが長く光を放って、いつまでもそこにある事の為に



様々な事を考えた。

設置に際して芦原研究所と現況に対応して、(すでに朝倉さんの彫刻の場所も決まっていた) 残された点を幾つか当たったが、都と区との区分の線にひかかったり、街路樹、広場灯、サイン等との立上りがあって、残された視角内で最も効果的な点が決まった。私は建築と関わったそれらの物の形や設置については常にアーキテクチャルなアプローチを原点に

置いて決めている。その中での造形の在り方に様々な形体を現場に抽出している。

一番のミスジャッジは光のオベリスクの方位であった。形の正面性を逆に見せてしまった事である。光のオベリスク「アリオン」とオーギュスト・ロダンの言葉通りに最っと気張るべきだった事、そして芦原先生もそれを望んでいられたのではなかったかなとしきりに反省している。





KIICHI INO

飯野毅一

東京都中央区銀座3-10-19 美術家会館1F  
現代彫刻センター TEL.03-3542-7505

東京芸術劇場の設計計画に、過去に例を見ない程の多数の美術家、工芸家の参加を得たことの意義は誠に大きいものがあります。

それは、この東京芸術劇場が建物や構

造物、或いはその機能性といった側面に必ずしもとられることなく、文化活動の拠点として、正しく人々に解放された心豊かな共有空間の創造というトータルな見地から計画され実践された結果と考

え得るからであります。

私共の担当は、劇場正面入口前に拡がる西口公園の中にシンボルとして設置される大型彫刻、そして10本と8本の2つのグループに分けられたステンレス・パ



ミードモア 撮影：村井 修



石彫 右から若林 功・斎藤 智・岡本敦生・山崎隆・湯村 光・菅原二郎・中井延也・高田大

イブの上に設置される彫刻群の企画制作でありました。いずれも劇場建物と一体となった都民の共有空間を創造するとの見地から極めて重要な位置を占めております。従って作家の選定と制作発注に当たっては、芸術性はもとより環境性や市民性といった様々な条件を考慮しながら、都当局、豊島区当局、並びに芦原建築設計研究所の御指導を仰ぎつつ、鋭意慎重に行われたことは申すまでもありません。

## 1. 「CRESCENDO」

(音楽用語で、次第に強くなること)

ペインテッド・アルミニウム

高さ10m

クレメント・ミードモア氏制作

東京芸術劇場のシンボルとなる大型彫刻については、何よりも巨大な劇場建物と一体感を成す存在としてスケール感のある力強い作品が求められました。その結果、欧米において数多くの優れた野外彫刻の実績を持つ、アメリカのクレメント・ミードモア氏が選ばれました。作品の設置完了まで、ミードモア氏は数次にわたり来日、その間、主に劇場建物との相対関係を考慮に入れた3つの作品モデルが制作され、作品の方向・角度やスケールの決定まで、現場での検討作業が関係者を含めて幾度か行われ、「CRESCENDO」が我国初のミードモア作品として最終決定を見るに至りました。作品制作はニューヨークで行われましたが、作品設置に係わる綿密な打ち合わせが日米の関係者間で行われた結果、設置作業も略々順調に完了することが出来ました。

## 2. 「田園交響楽」

ブロンズ

地面より高さ 3.35m-6.5m

加藤昭男氏、掛井五郎氏制作

劇場建物に至る西口公園の導入部に10本のステンレス・パイプを点在させ、その各々の上にいわゆる半具象の楽しい彫刻作品をひとつのグループとして複数の彫刻家に制作を願うという前提で作業が開始されました。

作家の選定からパイプの高さや太さ、そして作品の配置や方向等、ひとつの望ましい結果を得る為に、可成り実験的な要素を含んだ企画と思われました。

幸いに、お互い息の合った新制作協会に加藤、掛井の両氏がこの難題に快く取り組んで下さることとなり、関係者一堂に依る度重なる協議の中から、この場所の作品に相応しい「田園交響楽」というテーマも決定されました。お二人の彫刻家が5点ずつ制作されることになりましたが、10点の作品の各々の相関関係や大きさの決定等、正に息の合った作家同志ならではの制作が続けられ、同時に作品の空中への配置に係わる検討も重ねられました。然しながら光線の加減や視点の動線など、どうしても机上の作業では限界があり、最終的には現場に作品を持ち込んでの実験作業となりました。各々完結した複数の作品を空中に然るべく点在させて、全体としてひとつのテーマを表現させるというこの企画の難しさを加藤、掛井両氏の多大な御尽力を得てなんとか克服、無事に設置を完了する事が出来ました。

## 3. 「石彫の道」(仮称)

御影石

地面より高さ 2.05m-3.03m

岡本敦生、斎藤智、菅原二郎、高田大、山崎隆、中井延也、湯村光、若林功

(五十音順) 各氏制作

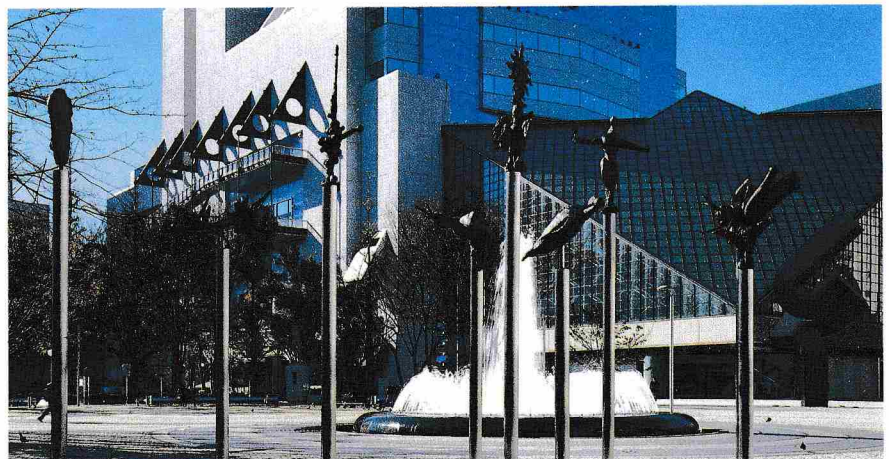
西口公園の南側、木立の中の遊歩道に

沿って並び平均1.8m程の日本のステンレス・パイプの上に設置される彫刻作品群は、「田園交響楽」がいわば動的存在であるのに対して、未来に向かう悠々の示す静的存在として検討して行くことから始められました。

先ず、作品の素材を御影石とする方針が決定され、内外の彫刻界で活躍中の30代から50代の日本人中堅作家の中から、各々が異なった芸術表現をされる8名の彫刻家が選定されました。

そして、作品の重量の上限を300kgとする前提条件のみで、各作家に自由に制作願うべく、先ずはデッサンを御提出願いました。こちらは特定のテーマは設けず、完全に競作という形式になりましたが、幸いに何れのデッサンも関係者の御期待に十分に応え得るものであり、順調に制作が開始されることになりました。日本のステンレス・パイプは一列に並んでおり、作品もほとんどがいわゆる抽象形態でありましたので、設置に際しては作品同士の個性がお互いに有効に発揮されることに主眼を置き、保全面に配慮しつつこちらも無事に設置を完了する事が出来ました。

周囲への力強い問いかけを意図した作品「CRESCENDO」、楽しみや喜びを謳った「田園交響楽」、悠々の時を静かに語る石彫群、その何れもが劇場建物や他の多くの美術作品や工芸作品と一体となって都民の為の快適で愉快的な共有空間の創造の為に資することを願わずにはいられません。



加藤昭男・掛井五郎 撮影：村井 修



彫刻家  
KAKUZO TATEHATA  
**建 畠 覚 造**  
埼玉県川口市芝新町7-20第2ビル  
藤ローザ TEL.0482-61-0685

## 東京芸術劇場外構 モニュメント WAVING FIGURE

設計者の芦原義信さんから東京芸術劇場の外構モニュメントの製作の相談を受けたのは一昨年の6月頃であった。その頃、此の建築の池袋の現場は漸く鉄骨の建ち上りを見せ始めた頃で全く混沌としていたが、私は渋谷の芦原事務所に伺い、所長の芦原さんや副所長の澤田さんとお会いし、図面や建築模型をもとにして、東京芸術劇場の建築プランや、その周辺

の環境設計の説明を受けた。その折示された此の建築の主要なコンセプトの一つは、巨大な硝子面に覆われ、常時市民の立ち入る事の出来るアトリウムであり、建築の中と外との融和は此のアトリウムによって保たれていた。極めて魅力的な実験空間である。私の製作するモニュメントの為に予定されたスペースは此のアトリウムの外構であったが、私は此の様

な空間に対応する製作に大変興味を持った。然し、此の様な空間に対応する事は、一方において並大抵の事ではないと思われた。

私は早速、此の様なスペースを分析しながら、先ず幾つかの木の模型の製作にかかった。模型は試作を繰り返しながら応て絞られ、最終的には私の現在の彫刻の主題である波状形体に近づいていった。其の様な過程で、私が先ず考えたのは、無限に上昇する形であった。そして其の形は、先に述べたアトリウムの外構で、その内側と外側との多角的な視角に対応するフォルムでなければならなかった。私は垂直に上昇する波形を水平に複数分割し、それを一つおきに中抜きしながら、中央を貫く円筒で繋ぐ事を考えた。此の波状形体は、人々の見る角度によって、或る方向からは曲線に、又、或る方向からは直線に変化する視覚体験を持つ事が、出来る筈である。

右の様なプランを進めながら木の模型を私は同形の磨かれた金属模型に作り代えたが、此の段階で作品の磨かれた曲面（鏡面）は、周囲の環境を写しとり、時間と空間を取り込みながら、刻々と変化する環境造形となってゆく。つまり、巨大な建造物に対応する為には、その建造物を含む広い環境との対応なしには、彫刻は建築の附属物になってしまうだろうと思われたからである。

実物のモニュメントは予め私の作品を手がけているハイテクな設備のある工場で、コンピューターコントロールにより部分拡大と総合構築により完成されたが詳細は紙面が無いので割愛します。





彫刻家  
KYOKO ASAKURA  
朝倉響子  
東京都文京区千駄木1-8-4  
TEL.03-3827-6763

あるとき街で何げなくみかけたさまざま  
なシルエットが、あるときふとよみが  
えることがあります。

初めて新しい空間に立ったときそのシ  
ルエットがいくつか重なりあって、記憶  
の残像が「ふたり」のシルエットになり

ました。ゆきかう人の中にとけこんで、  
ときのすぎゆくはざまにかたりかけられ  
たらと希っています。





建築彫刻家  
TAKEMI ENOMOTO  
**榎本建規**  
東京都新宿区荒木町22さくらマンション53  
榎本建規アトリエ TEL.03-3351-6704

## 私の場所録

### 東京センチメンタルジャーニー

「両国駅」かつて終着駅だった構内の高窓から朝日がさしこんでいて床の中央にタイル貼りの土俵があってまわりの壁の高みから力士の額が私を見下ろしている。今は誰も居ないのにやはり大勢の空間なのです。

「新大橋東詰の小公園」の鉄柵にもたれて眺める西日と川波と風は絶品です。私のバッテリーパーク。ウォーターフロントのスカイラインが川面にゆれて。

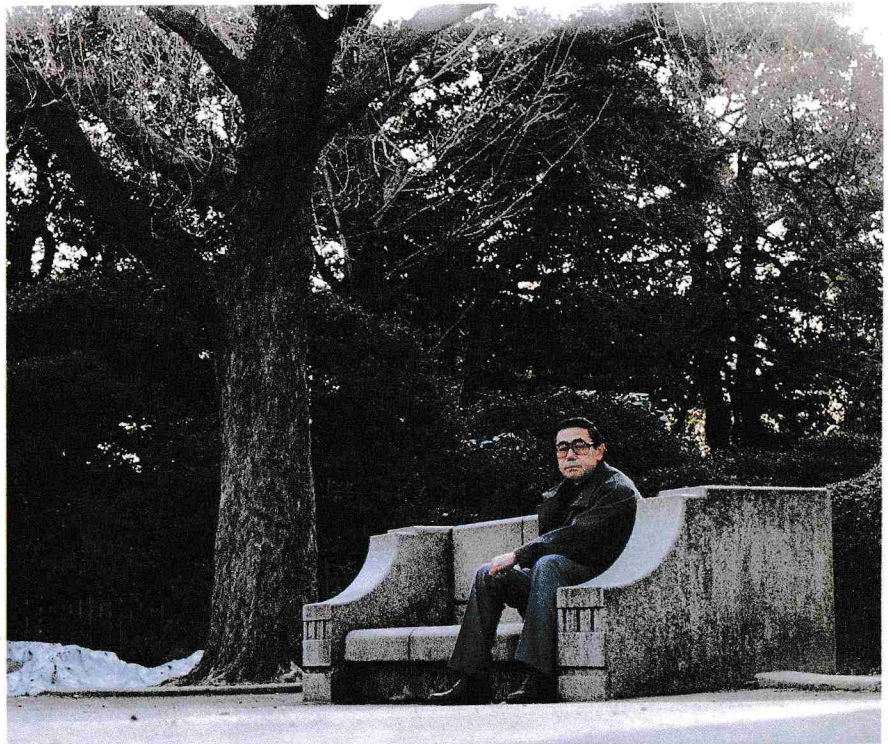
「お茶の水駅」を聖橋に出て大いに迷うこと。右に行けばニコライ堂、左に行けば明神様、鐘の音にしようか甘酒にしようか、それとも聖堂の孔子廟の楷の樹の梢を読みに行くとか……。

「わがまち新宿」は縦糸、横糸のないクレイジーなピストリー。朝、昼、夜のいとなみと時の流れがもつれ合い織りこまれていてもはやほぐれない。そこに私の青春もまだほつれるままに残っているようなまち。

30年前の私がアルバイトで画いたアンドン看板のコーヒー店がまだあって、時折そのコーヒーを飲みに行く。ほろにがさをすすりザンゲする。

「東京駅」のステーションギャラリーから、丸の内を眺める。土曜日にはその喫茶室の窓辺でグラスワインをやりながら丸ビルを眺める。悠然と時代をこえて来た建物同志が対話している。丸ビルの三連の窓の配列がやさしいまなざしでこちらを見ている。

「神宮外苑」の冬はガランとして明るい。いちよう並木も梢をはらわれて骨の兵隊さんになって春を待っている。壁泉から幾条かの水のでのひらが冬の陽ざしをつかもうとして水面をゆらす。トウカエデ唐楓の下の石のベンチの左はじが私のいつもの席で、春から夏は若い男女が座っている。しかたなく唐楓の幹をひとまわりして帰る。秋にはこの石の座の上は唐楓の二枚の羽をつけた実が落ち敷かれていて、拾ってガラス瓶に入れ陽にかざす。



神宮外苑にて



金属工芸家  
HIROSHI MINAMIZAWA  
南澤 弘  
亀岡市曾我部町大廻11北41  
TEL.077-122-3588(株)よし与工房

## カタロニア鉄記行

今回の出版のための取材もようやく終りに近づいていました。今までに仕事のついでも含めて十数回、海外取材をして来たのですが、この鉄の建築装飾の世界でどうしても避けて通れない存在、スペインのアントニオ・ガウディが未だ残っていたのです。彼の鉄の仕事は資料で見るとかぎり特異中の特異で常識では考えられないような工作や仕口が気になり、この目で見るまでは全く予断を許さないといった気持ちを持ち続けていたのです。

私はその気になりさえすれば、今まででも、何度でもバルセロナへ行くことは出来たのですが、正直なところ何となく覚悟が決まらなかったのです。物怖したのかも知れませんが、怖い物見たさの楽しみを残してあったのかも知れません。

私はこの仕事の仕上げとして遂にバルセロナへ降り立ったのでした。

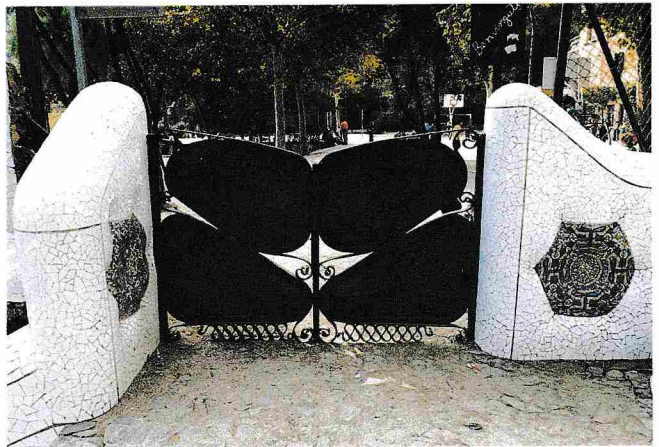
さて、まさに一見は何とやらで、「ハーン」という声にもならないため息が出たように思うのですが、その時の感慨はすぐには言葉にならなかったのです。そこには奇異とか、不思議といった先入観はとっくに消え失せていました。「何と自然であることか」、一人の人間のアイデアが、感性が、何の抵抗も無く伝わって来るではありませんか。ここに居るとこう言う物が造りたくなる。こう言うものが出来てしまう……ガウディの鉄の仕事は本当に自然でした。その土地に、その土地の植物が生えるように、明るいカタロニアの風土、乾いた開放感、楽しい理屈っぽさのアラビヤ風の造形物……それらはまぎれも無くガウディの土でした。鉄の仕事のそれも、そこに自然物として生え繁っているのです。決して変な仕口や無理な工作物とは思われません。

アイデアが自然物のような有機的な法則に導かれて「かたち」になって行った形跡があります。ガウディの自然は本当の自然に溶け込んでしまいます。

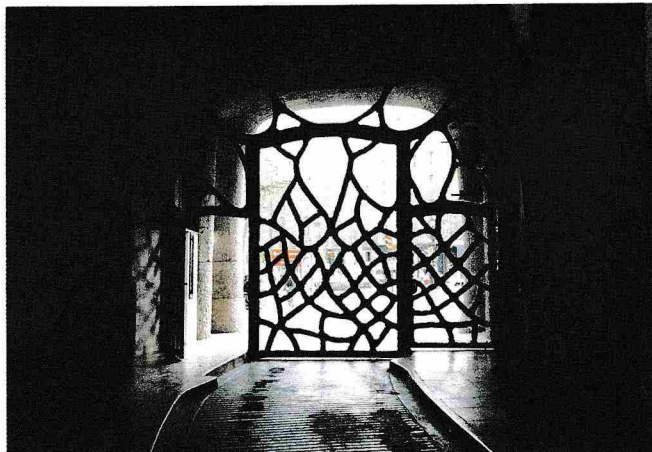
人類は自然の描写から模様を、編み出し、意匠を組立てて、それはクラシックとなり、伝統となって受け継がれて来ました。我々は今も、それをひねくり廻して少しずつバリエーションを増やしています。そんなことにおかまい無く、ガウディの鉄の仕事は自然を心で写生して、いきなり手で造ってしまうのです。それが「もの」に成るのはヨーロッパの“技術の歴史”の教養でしょう。アラブ文明との豊かなハイブリッドのカタロニアの感性です。本当の創作と伝統の意味をガウディは語ってくれているのです。



カサ・ミラのバルコニー手摺



グエル公園内の門扉



カサ・ミラの入口扉 ガウディバルセロナ



フィンカ グエルの竜の門扉 バルセロナ

## 平成3年度 通常総会について……

予 定 日：平成3年5月8日(水) 午  
後5時40分より(午後5時  
半開場)

場 所：建築会館ホール(東京都港  
区芝5丁目26番20号建築会  
館1階)

懇親交流会：午後6時半より同所にて行  
いますが、次のようなアト  
ラクションを企画しており  
ます。正会員は勿論ですが、  
法人会員におかせられては  
一企業3~5人のご参加を  
期待しております。(ワイ  
ン・パーティです)

会 費：一人5,000円。

アトラクション：アルコ・イリス フラメン  
コのタペ(踊り手=新田和  
子、クーロ・宮田その他大  
勢、ギター=伊藤 茂、唄=  
加藤直次郎)

∞アトラクションは、天候によりますが  
建築会館の中庭を使用し楽しい集いにし  
たい。

## (社)日本建築美術工芸協会'91 トーク

主 催 (社)日本建築美術工芸協会、東  
京ガス株銀座ポケットパーク館

第30回 1991年4月2日(火)  
北村温子氏(七宝・モザイク。  
株OPA)  
：芸術家と職人

第31回 1991年5月7日(火)  
桜井 清氏(建築家。久米建築  
事務所)  
：建築とアートワークー最近の  
作品からー

第32回 1991年6月7日(金)  
堀 朝子氏(デザイナー。東陶  
機器株)  
：最新トイレのトレンド

第33回 1991年7月5日(金)  
田中栄作氏(彫刻家。武蔵野美  
術大学教授)  
：空間の演出について

第34回 1991年9月17日(火)  
竹内裕二氏(建築家。竹内裕二  
建築設計事務所)

：イタリア中世の山岳都市一建  
築家がみた丘上・山岳都市一  
以上1次

第35回 1991年11月28日(木)  
佐々木群氏(建築家。佐藤総合  
計画)

第36回 1991年12月3日(火)  
崎山小夜子氏(インテリアデザ  
イナー。  
崎山小夜子INTERIORS)

第37回 1992年1月17日(金)  
井上雄治氏(建築家。山下設計)

第38回 1992年2月7日(金)  
内井乃生氏(彩布。文化女子大  
学教授)

第39回 1992年3月27日(金)  
矢作彩子氏(空間デザイナー。  
エアーアンドスリーエム環境企  
画)

以上2次

## ヨーロッパの街並み展

主旨 ヨーロッパにおける都市広場の歴  
史と発展を紹介する本展は、わが  
国の街なみの保存さらには町づく  
りにおいても示唆するものを多く  
もっています。

さらに、建築・都市を文化として  
継承してゆくうえにも参考になる  
と存じます。

(展示される写真パネルその他は、  
すべて駐日E.C.委員会代表部の提  
供です)

会場 東京ガス新宿ショールーム(東京  
都新宿区西新宿3-7-13)  
一JR新宿駅南口下車、甲州街道  
を幡ヶ谷に向け徒歩約15分右側で  
すー

会期 4月11日(木)~4月25日(木)。午  
前10時より午後4時の間。  
入場無料

主催 駐日E.C.委員会代表部 (社)日本  
建築美術工芸協会 (社)日本建築  
学会

後援 (予定)文化庁 東京ガス株 日刊  
建設工業新聞社 日刊建設通信社

## A.A.C.A.作品写真展並びに オープニング・パーティのご案内

会期 3月22日(金)は午前11時~午後5

時。3月23日~4月15日(月)は午前  
11時より午後7時、但し水曜日は休  
館します。

会場 東京ガス株銀座ポケットパーク館  
2階(東京都中央区銀座7-9-15)

○オープニング・パーティのご案内：3  
月22日(金)午後6時~パーティを同ポ  
ケットパーク館1・2階で行います。  
参加希望者は事務局まで電話等にてお  
申込み下さい。

会費は一人1,000円です。但し出品者は  
無料です。



と き：平成3年4月12日(金)午後2時  
~午後5時半(午後1時開場)

ところ：常陽藝文ホール  
〒310水戸市三の丸1-5-18常陽  
第百郷土館7階 ☎0292-31-6611

発行：社団法人日本建築美術工芸協会

Phone 03-3457-7998

Fax 03-3457-1598

〒108 東京都港区芝5-26-20

建築会館6F

振替：東京 1-365085

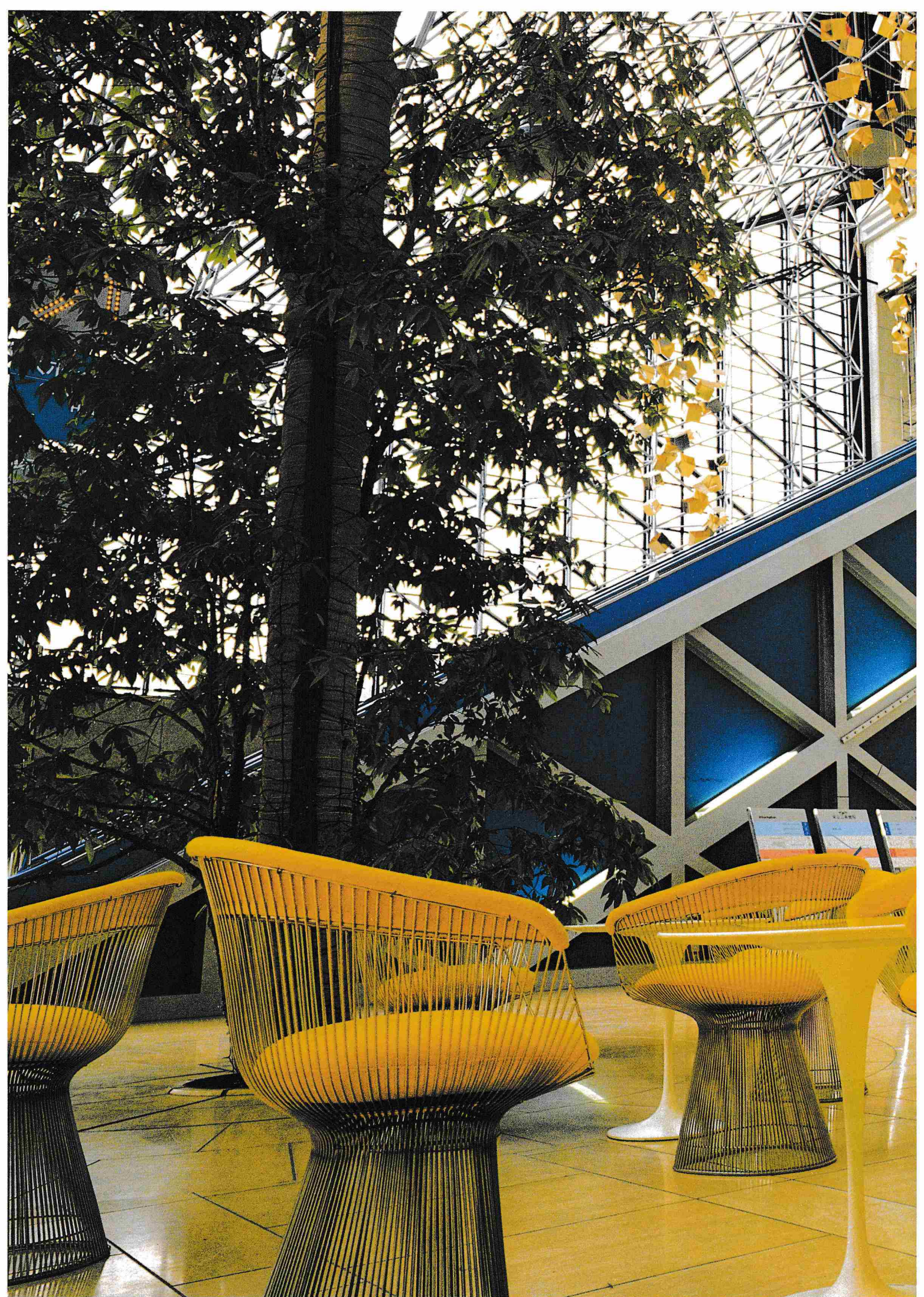
編集：(社)日本建築美術工芸協会広報委員会

柳澤孝彦(委員長)、宇津野和俊(副委員長)

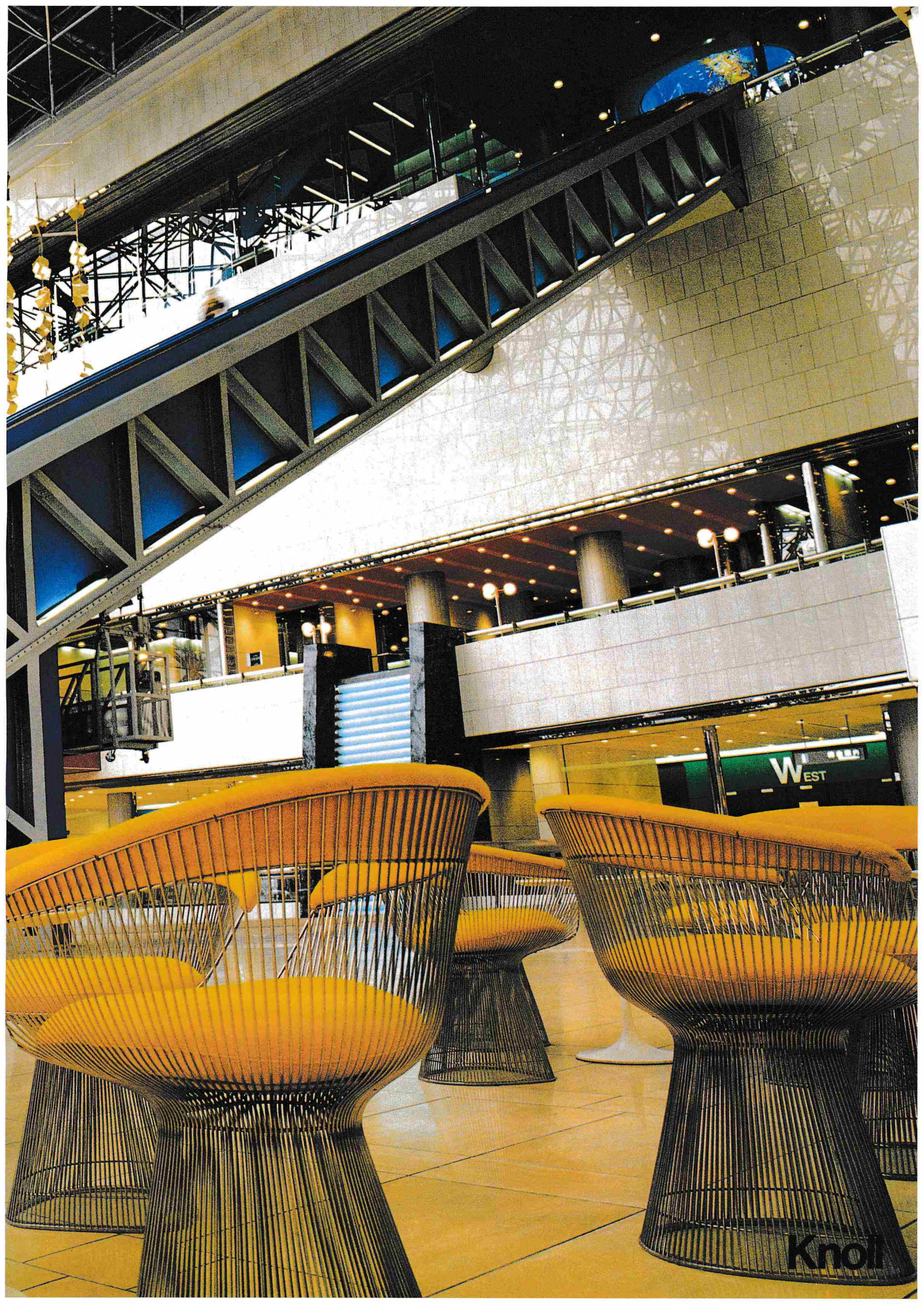
大多了介、小玉 功、崎山小夜子

高部多恵子、玉見 満、土屋 巖

製作協力：株SP建材エージェンシー







Knoll

# 高感度トレンドィ・スペース

「ハイレイフ・インテリア空間」の創造

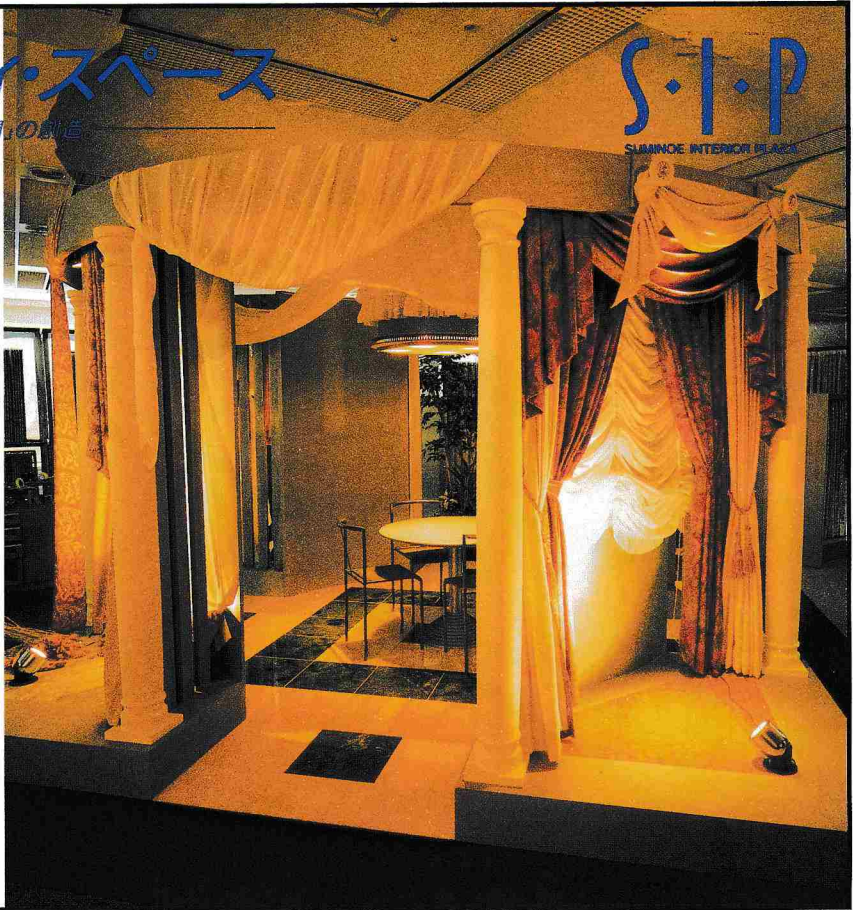
S・I・P  
SUMINOE INTERIOR SPACE

## 東京スミノエ・ショールーム

スミノエ製品全般の展示

(カーテン、カーペット、壁装、絨帳、美術織物、ウッドフロア、天然石タイル、硬質床材、ラグ・マット、インテリア小物、椅子張、襖紙、車輦内装材)

海外提携商品の展示室、国内外業界関係資料室、デザイン・ワーキング室、プレゼンテーションルーム、イベントホール



ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド  
**住江織物株式会社**

- 東京ショールーム/東京都品川区北品川4-7-35御殿山森ビル4F  
TEL.03(5488)5521
- 本 社/大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)6801
- 大阪支店/大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)0082
- 東京支店/東京都港区三田3-13-16第43森ビル8F TEL.03(3456)3011
- 営業所/札幌/仙台/新潟/大宮/千葉/横浜/静岡/金沢/  
名古屋/京都/神戸/岡山/広島/福岡
- 連絡所/盛岡/多摩/松山

# より大きな感動と情熱を伝える舞台づくり それは三精輸送機の使命です。

豊富な実績と経験から得た幾多のノウハウに、最新の技術を加えた三精輸送機の総合力は、あらゆる舞台機構のニーズに的確にお応えします。

- 舞台機構
- 昇降機
- 立体駐車装置
- 遊戯機械装置



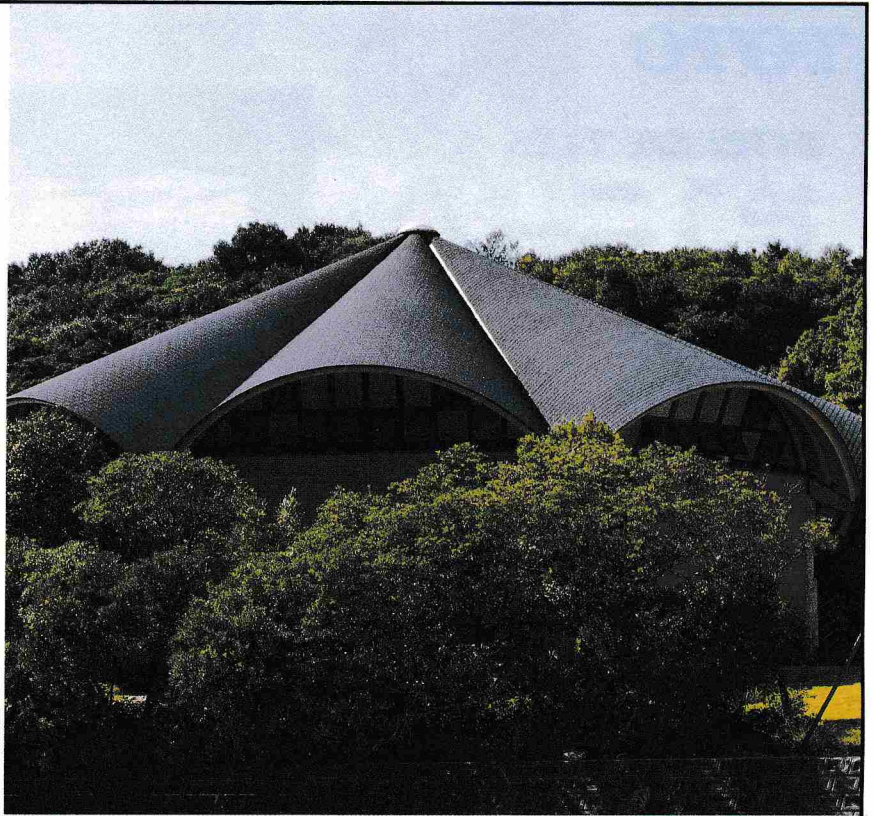
東京芸術劇場(中ホール)  
大・中・小ホール舞台機構納入

設計/製作/施工  
**三精輸送機株式会社**

本社/〒564 大阪府吹田市江坂町1丁目13番18号 TEL06(385)5621(大代表)  
東京支店/〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目29番11号(ナカニシビル) TEL03(3356)5651  
出張所/札幌・青森・仙台・秋田・金沢・名古屋・広島・九州 工場/京都 TEL0773(27)1211

# 屋根と環境。

三星フネンシングル・アスファルトシングルシリーズは、自然環境や街の景観に馴染むツツナ葺き味を持ち、素材から仕上りの質感まで一貫した「環境との調和」が図れます。



## 田島ルーフィング株式会社

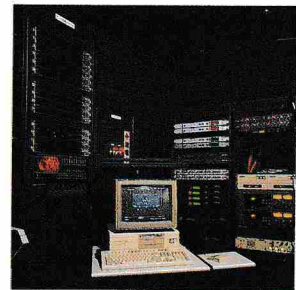
東京：〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13 電話(03)3862-8531  
 大阪：〒550 大阪市西区京町堀1-10-5 電話(06) 443-0431  
 札幌：〒060 札幌市中央区北三条東5丁目5番 電話(011)221-4014  
 仙台：〒980 仙台市青葉区一番町1-1-8 電話(022)261-3628  
 大宮：〒331 大宮市柳引町1-4-11 電話(048)653-1885  
 千葉：〒260 千葉市登戸1-4-1 電話(0472)44-3711  
 横浜：〒231 横浜市中区太田町1-4-2 電話(045)651-5245  
 金沢：〒920 金沢市鶴巻町19-3 電話(0762)39-1030  
 名古屋：〒461 名古屋市中区東片端23番地 電話(052)961-4571  
 広島：〒730 広島市中区西平塚町8-13 電話(082)246-8625  
 福岡：〒810 福岡市中央区薬院4-2-11 電話(092)521-3133

## HYFAX PROFESSIONAL SOUND SYSTEM & DESIGN



### テクノロジーが創造する 高次元の音響空間。

東京芸術劇場「中ホール」の音響システムは、不二音響の誇る音響調整卓「シアス」、効果卓、そして日本で初めて導入された音像定位システム「デルタステレオフォニー」など、豊富な音響機器により構成されています。スピーカ出力系統は、客席数850席クラスのホールでは日本最大規模の音響設備となっており、このような舞台芸術にも対応します。より高次元の音響空間の創造を、不二音響です。



### DELTA STEREOPHONY

音像定位システム「デルタステレオフォニー」は音源と視覚のズレを補正する画期的なシステムです。音源がステージ上を前後左右に移動した場合、コンピュータがディレイタイムを変更し、リアルタイムで音像を定位させます。スピーカに近い席の人にも音源である話し手の方から音が聴こえてきます。

## 不二音響株式会社

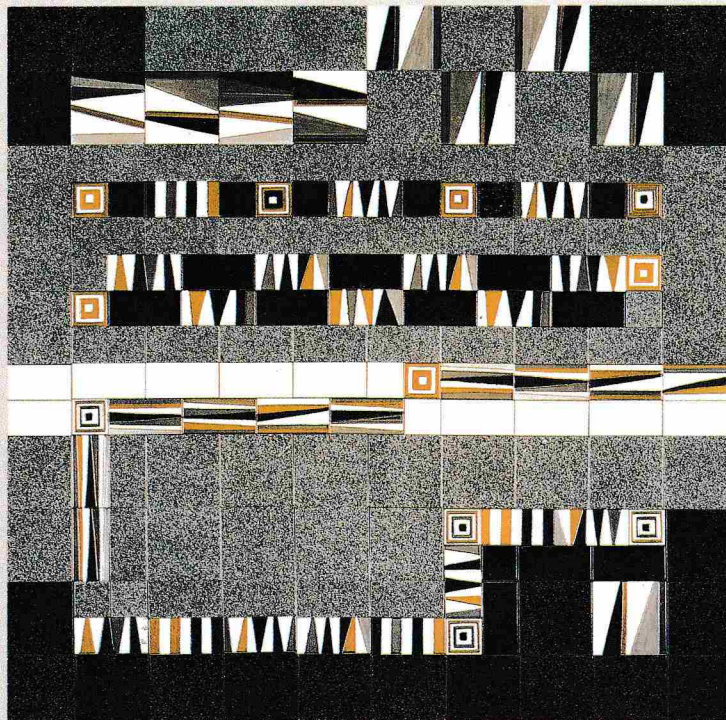
本社 東京都千代田区六番町7-22 TEL(03)3263-3181代 FAX(03)3263-0440 千102  
 名古屋営業所 名古屋市中区栄2-11-3 白川アカデミービル TEL(052)201-4922代 FAX(052)201-5650 千460  
 大阪営業所 大阪市西区北堀江1-1-24 四ツ橋近衛ビル TEL(06)541-7263代 FAX(06)541-7269 千550  
 仙台営業所 仙台市宮城野区元寺小路221 サイビル TEL(022)295-8648代 FAX(022)295-8647 千980  
 福岡営業所 福岡市博多区博多駅前2-5-37 博多ニコビル TEL(092)452-2811代 FAX(092)452-2796 千812  
 練馬工場 東京都練馬区羽沢3-32-1 TEL(03)3993-1391代 FAX(03)3948-9352 千176

# TOTO

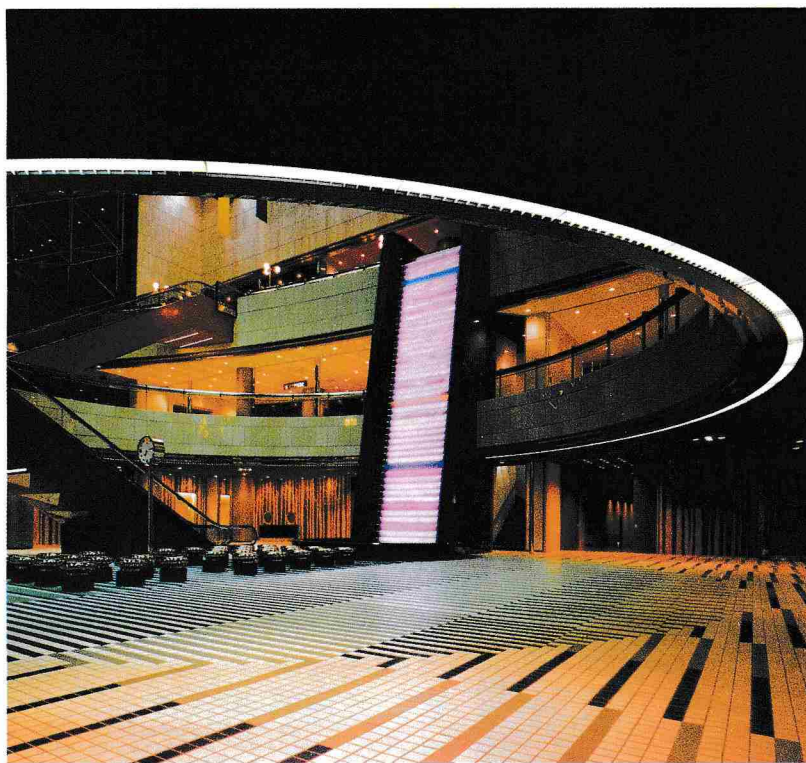
## INTERIOR TILES

# 輸入デザイン タイル 〈パラッツォ〉

伝統を慈しむ心と、常に斬新なファッションを輩出する感覚とを共存させる国、イタリアを中心に、日本の建築に新たな息吹を与えるTOTOの輸入タイルセレクション。欧州の装飾様式に培われた味わいのある図柄・色彩、躍動感に満ちたライン、立体感あるレリーフが新しい空間を演出します。



カタログご希望の方は、〒107東京都港区赤坂7-3-37 プラースカナダ 東陶機器(株) 広告宣伝部「建美T」係まで、住所・氏名・電話番号を記入の上ご請求下さい。



# アーバン ファシリティ

## URBAN FACILITY

ハート+アートで豊かな都市づくり

**DAICHI  
STAINLESS  
INTERIOR**

株式会社ダイチ

本社 製品事業部

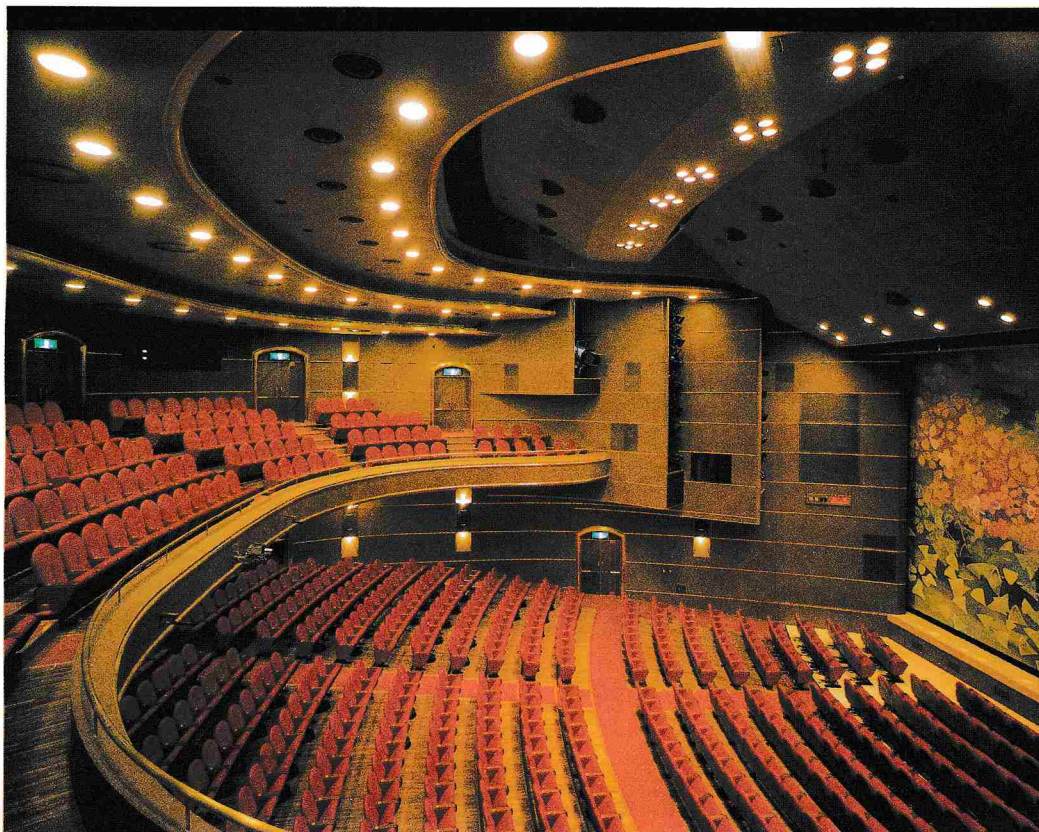
135 東京都江東区東陽3-24-14  
Tel.03-3647-1185(代表) Fax.03-3644-9373

特販事業部

135 東京都江東区東陽3-23-26 太陽ビル3F  
Tel.03-3647-1231(代表) Fax.03-3647-2314

都市アート開発事業部

135 東京都江東区東陽3-23-26 太陽ビル3F  
Tel.03-3647-1260(代表) Fax.03-3647-1537



Tokyo Metropolitan  
art space

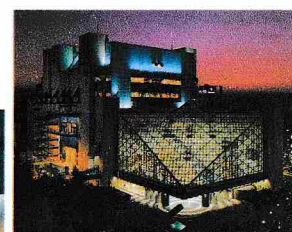
テクノロジーと文化の融合



**愛知株式会社**

東京本部/東京都港区麻布台3丁目1番2号(飯倉セントラルビル2F) TEL (03) 3585-0016(代)  
本社/名古屋市東区筒井3丁目27番25号 TEL (052) 937-5931(代)

## 舞台照明設備 製作・施工



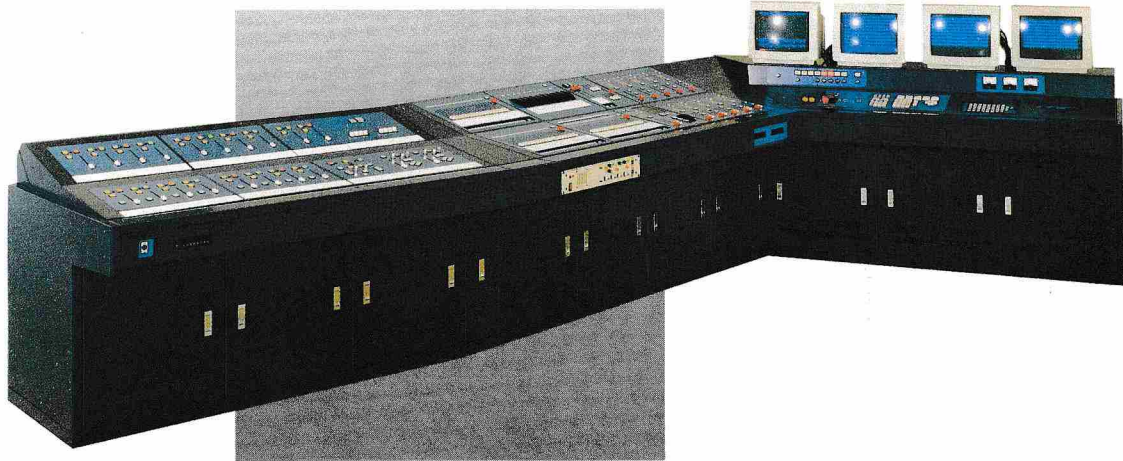
東京芸術劇場 大ホール

 **MDS (株)松村電機製作所**

本社 〒113 東京都文京区根津2-12-1 Tel.03-3821-6161  
営業所 大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

MARUMO ELECTRIC CO.,LTD.

光りも舞台のもう一つの魅力です。



- 来る21世紀に向けての文化、芸術の最先端総合施設として、人々の熱い視線が東京芸術劇場に注がれています。
- 新設された舞台設備から生み出される空間をより深く、重層的に表現してゆくのが、時代をリードするMARUMOの舞台照明技術です。
- 舞台照明技術の粋をあつめたマリオネット調光システムを軸にして、MARUMOの舞台照明機器がこの東京芸術劇場中ホールで活躍しています。

 丸茂電機株式会社

本社・営業部/〒101 東京都千代田区神田須田町1-24  
TEL.(03)3252-0321

大阪(06)312-1913/名古屋(052)263-7425/福岡(092)741-4762  
広島(082)252-1600/札幌(011)261-0321/仙台(022)263-0221

NICHIMAN RUBBER TILE SERIES

床仕上材：Astroface Series

テクノ

## 未来型空間を支える

(Astroface:テクノ)はハイテクノロジー時代にふさわしく未来をイメージさせる床材です。静寂と緊張感が漂う空間をささえる素材のひとつとして、ニチマンの新シリーズ床材(Astroface:テクノ)が誕生致しました。押えたモノトーンの色調とメカニカルなテクスチャーはゴムタイルとは思えない独特の表現力を発揮して未来空間に調和します。もちろん床材に求められる条件は全てクリアー、(Astroface:テクノ)は床にとどまらず建築の仕上材として大きなポテンシャルを秘めた素材としてお勧めいたします。



新製品

規格/サイズ：500×500mm 色 数：基準色30色：常備在庫10色  
用途/文化施設、スポーツ施設、オフィス、娯楽施設、学校

 株式会社 ニチマン

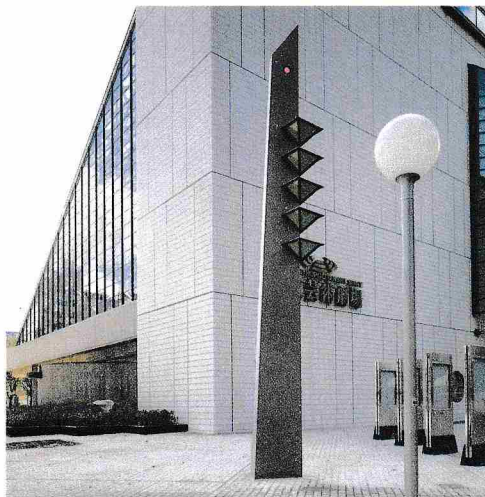
本社/〒726 広島県府中市府中町74-1  
TEL 0847-41-5600(代表) FAX 0847-41-5420-8021

西日本発売元 大阪ニチマン商事株式会社  
〒536 大阪市城東区南目1丁目21-11 TEL 06-939-3521(代表) FAX 06-939-3592

東日本発売元 東京ニチマン商事株式会社  
〒111 東京都台東区浅草6丁目8-3 TEL 03-3871-3561(代表) FAX 03-3871-3546

**METAL ARCHITECT**  
**KIKUKAWA**

メタルで、21世紀の都市空間に美を創造する。



東京芸術劇場(アトリウム三連回転扉アルミポリウレタン塗装仕上/モニュメント チタン+耐候性鋼)

設計：芦原建築設計研究所/施工：大成建設(株)・(株)間組

安藤建設(株)・西武建設(株)・日本国土開発(株)・(株)地崎工業

古久根建設(株)・城北協建設共同企業体

モニュメント作家：永原 浄

## 菊川工業株式会社

本社 ● 東京都墨田区菊川 2-18-10 ☎03-3634-3231 〒130  
第1・2部 ● 千葉県印旛郡白井町白井工業団地7 ☎0474-92-0141 〒270-14  
菊川金属工業㈱ ● 千葉県印旛郡白井町白井工業団地7 ☎0474-92-1141 〒270-14  
キタカワM&E㈱ ● 大阪府西区北堀江 2-9-20-102 ☎06-535-4381 〒550  
テクノ・プラザ ● 千葉県印旛郡白井町白井工業団地7 ☎0474-92-0141 〒270-14

建築史は 石 が伝えました  
人類が魅せられたその美しい肌合いを  
現代建築に表現します

SINCE 1901

# YABASHI

矢橋大理石株式会社

本社・工場	〒503-22 岐阜県大垣市赤坂町273	TEL0584(71)1211
東京支店	〒100 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル5F)	TEL03(3214)3561
大阪支店	〒541 大阪府東区高麗橋2-56(東栄ビル2F)	TEL 06(202)4905
名古屋支店	〒450 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル3F)	TEL052(561)3441
札幌営業所	TEL011(241)4776	広島営業所 TEL082(291)1863
福岡営業所	TEL092(721)0384	イタリア事務所 TEL 0585-55955



For a Lively World

# 人のいきいき、 創造したい。



新しいTAISEIが、動き始めています。めざすものは、人がいきいきとする環境の創造。都市機能の充実や、暮らしのさまざまなステージづくりをはじめ、幅広い領域を活性化し、そこに生きる人びとがはつらつとして生活できる環境づくりがテーマです。自然と人間が心地よく共存するための確かな技術と柔軟な発想で、21世紀の地球環境にチャレンジするTAISEI。今日も街に、人に、いきいきとした風をおくり続けています。

本社 〒163 東京都新宿区西新宿 1-25-1

大成建設株式会社



**KOTOBUKI**  
SEATING CO.,LTD.

快適な観賞をする為に不可欠な劇場用連結イス。  
——シーティングスペシャリストとして75年——  
コトブキでは、観客席の黒子としてグレードの  
高い劇場、ホールの椅子を開発しつづけます。

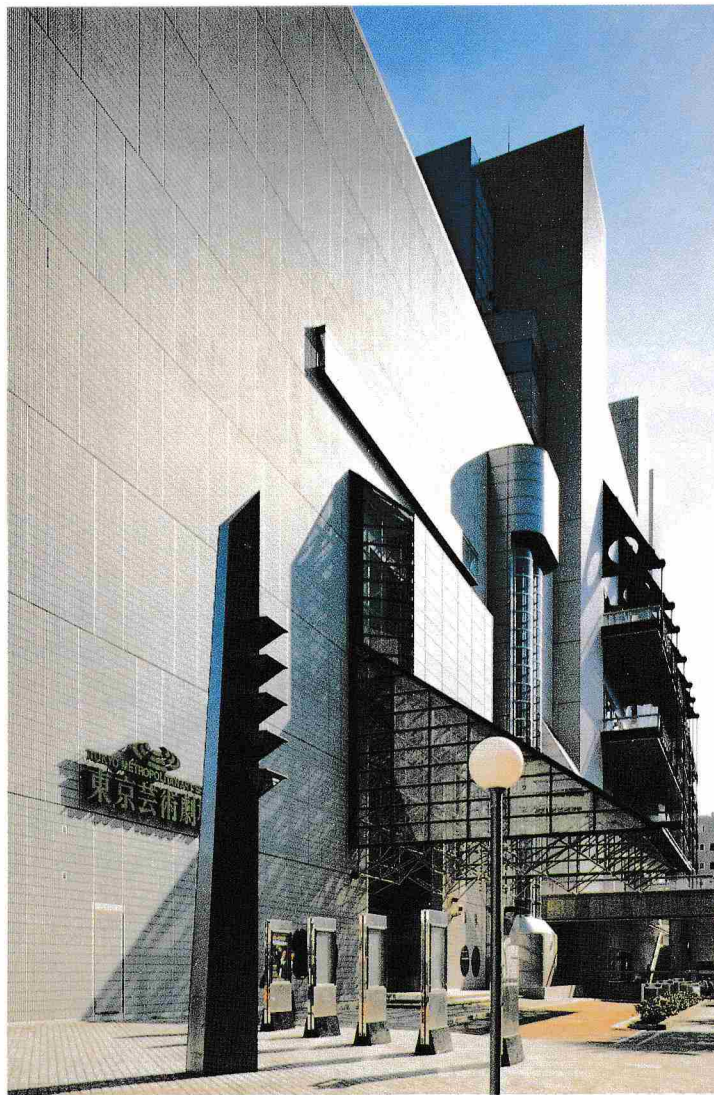
アート感覚が漂う  
芸術空間

東京芸術劇場大ホール

**コトブキ**

東京都千代田区有楽町1-2-12(コトブキビル)  
☎100 TEL03(3591)1311(代)

札幌☎(011)221-3496/青森☎(0177)75-3642/秋田☎(0188)63-9511/盛岡☎(0196)25-0713/仙台☎(022)284-1011/水戸☎(0292)25-8222/北関東☎(0286)62-7251/千葉☎(0472)75-2161/埼玉☎(048)644-5275/  
武蔵野☎(0422)53-8221/横浜☎(045)471-7151/新潟☎(0252)43-2216/長野☎(026)228-9722/静岡☎(054)282-8792/名古屋☎(052)773-4321/京都☎(075)371-3221/大阪☎(06)396-5111/金沢☎(0762)47-7422/  
神戸☎(078)612-6382/高松☎(0878)51-9140/広島☎(082)230-1261/福岡☎(092)441-0763/長崎☎(0958)47-8303/鹿児島☎(0992)58-2361/沖縄☎(0988)63-7803



# 人・間・空・間 たいせつに

株式会社INAX 本社 〒479 愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地 ☎0569-35-2700

東京本部 〒163 東京都新宿区西新宿二丁目3番1号 新宿モリス ☎03-3343-1700

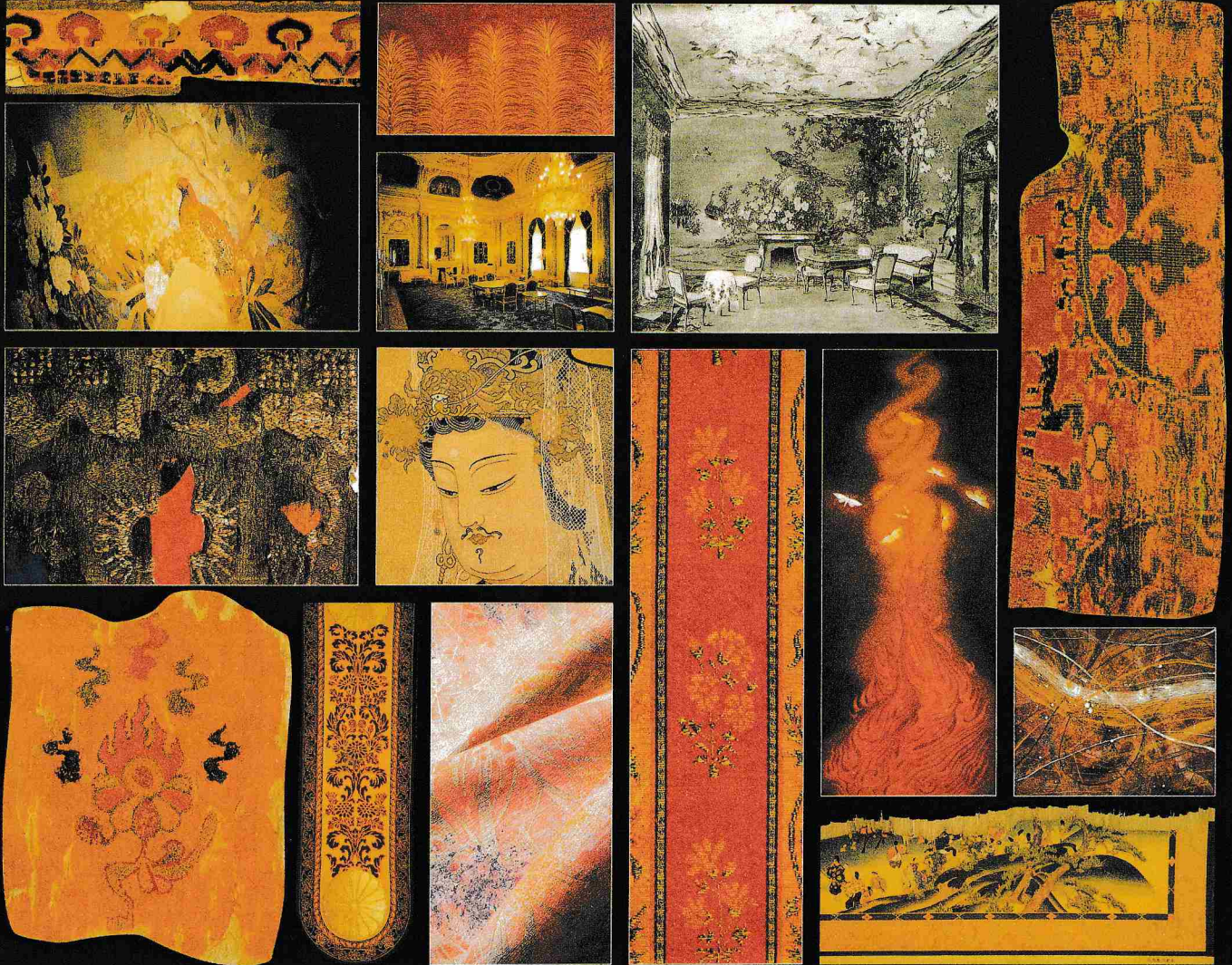
東京支店 〒104 東京都中央区八丁堀三丁目10番5号 ☎03-3555-3700

●全国ショールーム

札幌/011-241-1225	宇都宮/0286-34-2133	千葉/0472-22-1701	名古屋/052-201-1715	大阪/06-532-4001	高松/0878-21-1782
青森/0177-74-2345	大宮/048-651-1791	横浜/045-242-9290	津/0592-26-1715	神戸/078-221-7717	広島/082-227-1701
仙台/022-265-1710	水戸/0292-27-1718	松本/0263-36-7410	新潟/025-228-1701	岡山/0862-22-0155	山口/08397-3-2424
郡山/0249-22-7503	銀座/03-3562-1710	岐阜/0582-76-1711	金沢/0762-62-1701	徳島/0886-26-1703	福岡/092-471-1700
高崎/0273-25-1257	新宿L2/03-3340-1700	静岡/054-251-1701	京都/075-231-1716	松山/0899-31-5730	熊本/096-322-1894

# 〈川島織物文化館秘蔵品展〉

PHILOSOPHY OF KAWASHIMA TEXTILE ARTS



〔開催期間〕

1991年4月6日(土) — 4月28日(日)

開館時間 / A.M.11:00 — P.M.7:00 (毎週月曜日休館)

〔会場〕

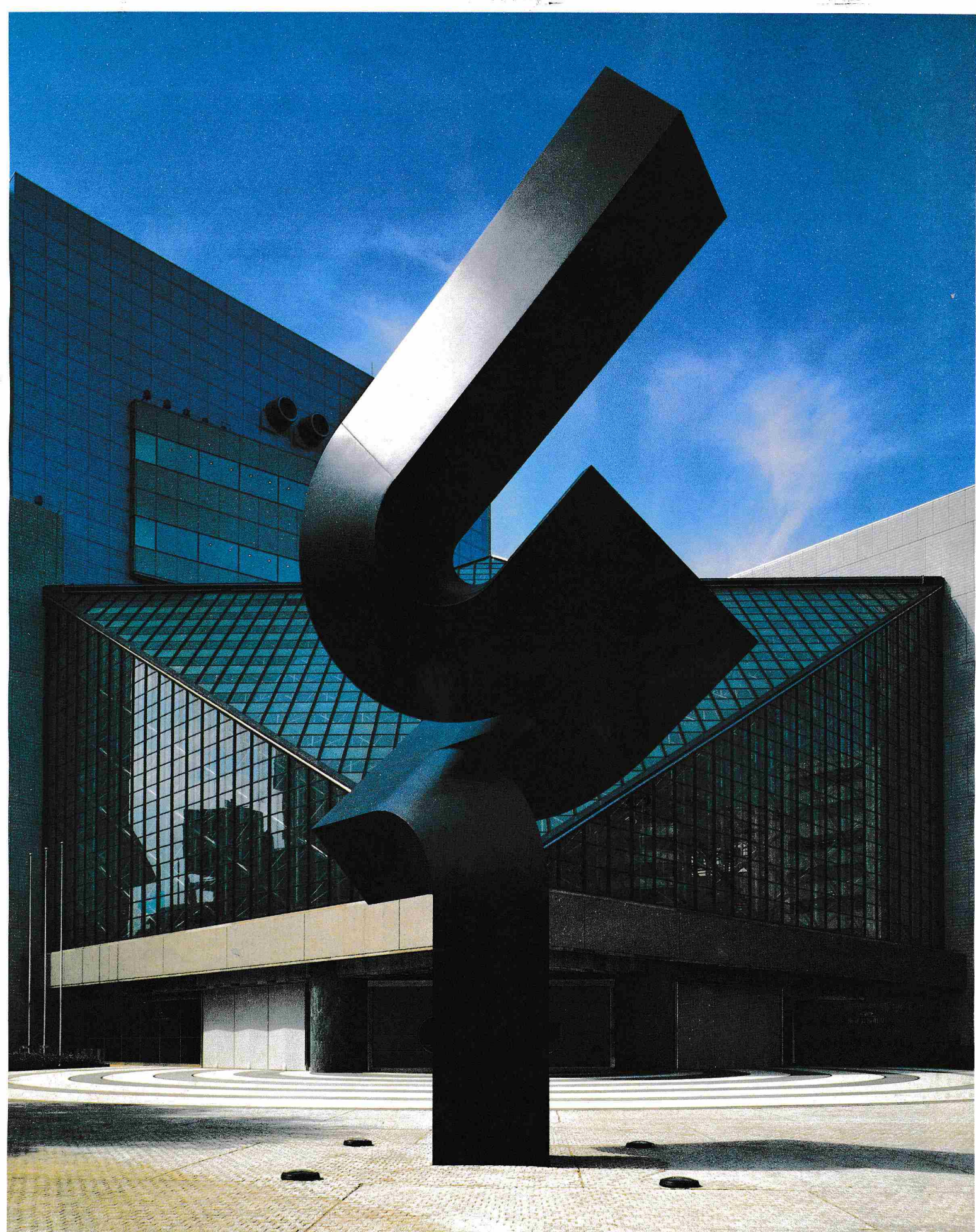
麻布美術工芸館

〒106 東京都港区六本木4-6-9 TEL.03-5474-1371 地下鉄日比谷線六本木駅下車徒歩3分

入場料 / 一般800円・学生600円

主催 / 川島織物文化館

後援 / 麻布美術工芸館・日本建築美術工芸協会・日本服飾学会・東急ファミリークラブ



"CRESCENDO" 1990年 アルミニウム H.10.7m クレメント・ミドモア作 東京芸術劇場

 **現代彫刻センター**  
CONTEMPORARY SCULPTURE CENTER

本店/〒104 東京都中央区銀座3丁目10番19号 美術家会館 TEL.03(3542)7505(代表)・03(3542)0138(ギャラリー専用)  
目黒分室/〒141 東京都品川区上大崎2丁目13番22号 シーアイマンション白金204号 TEL.03(3280)3981(代表)  
海外駐在員/ローマ・パリ・ニューヨーク